

bernette
sublime

my
city

my
bernette



Rome 8

使用の手びき

安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。また、ご使用前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。

説明書はミシンの近くに保管して、いつでもご覧になれるようにして下さい。また、ミシンを譲渡される際には、必ず説明書も一緒にお渡し下さい。

危険

感電のおそれがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用后、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。


警告

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. 当製品は、身体的または精神的障害のある方、経験および知識に欠ける方(子供を含む)に単独でお使いいただけるものではありません。必ず保護者あるいは責任者の監督指導下でご使用下さい。
2. おもちゃとしては、絶対にご使用にならないで下さい。また、小さなお子様等の近くでのご使用時は、特別の注意をお願い致します。
3. この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする付属品のみをご使用下さい。
4. お子様がミシンをおもちゃにしないよう、ご注意下さい。
5. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
 - ・ ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
 - ・ ミシンが正常に作動しないとき。
 - ・ 落したり、損傷したとき。
 - ・ 水の中に落としたとき。このような場合には、お近くのお買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。
6. ミシンの通気口をふさがないで下さい。また、ミシンの通気口に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターの過熱の原因となります。
7. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。
8. 必ず当製品専用の針板をご使用下さい。まちがった針板のご使用は、針折れの原因となります。
9. 曲がった針は使用しないで下さい。
10. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
11. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。
12. ミシンカバーを外したり、注油、または説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
13. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
14. 戸外では使用しないで下さい。
15. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。
16. プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシン本体の電源を切って下さい。
17. プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
18. フットコントローラーのコードが損傷した場合には、危険を避けるため、必ず製造者、サービスエージェント等の資格のある技術者に修理をご依頼下さい。
19. フットコントローラーの上には、何も置かないようにして下さい。
20. ミシンは二重に絶縁されています。ミシンの修理には、必ず専用の部品を使って下さい。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

二重絶縁について

二重に絶縁された製品では、アースの代わりに2種類の絶縁システムを採用しています。二重絶縁の製品には、アースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁の製品の点検には、細心の注意およびシステムに関する知識が必要とされますので、資格のある技術者にお任せ下さい。交換部品は、実際に製品に使われている部品と同一のものでなければなりません。二重絶縁の製品については、「DOUBLE INSULATION」または「DOUBLE INSULATED」の表示がなされています。

こちらの  のシンボルも、二重絶縁を示します。

説明書は大切に保管して下さい

当製品は、家庭用ミシンです。



環境保護

ベルナ社では、環境保護を大切に考えています。環境に与える影響を最小限にとどめるため、日夜、製品のデザインおよび製造技術の向上に努力しています。

電化製品は分別して廃棄するようにして下さい。

分別・廃棄の方法については、お住まいの自治体にご確認下さい。

電化製品を埋め立て等の方法で処理すると、有害物質が流出して、地下水を汚染し、食物連鎖によって、やがて自分自身の健康を害することになってしまいます。

古い製品を新しいもの買い換える場合には、法律により、小売店が古い製品を無料で引き取り、処分することになっています。

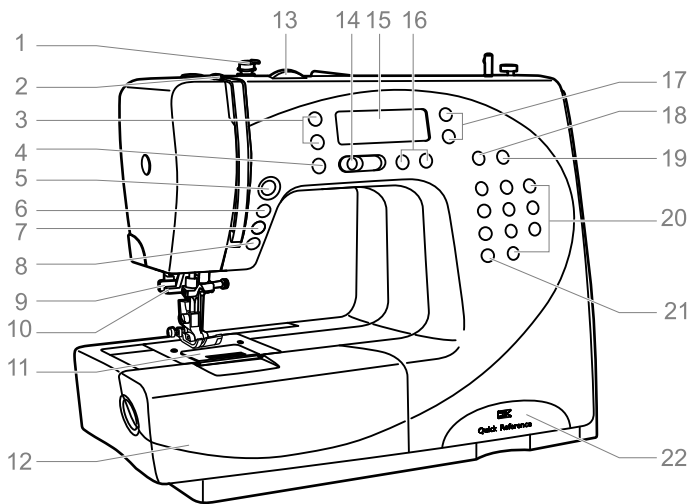
LED放射について

ソーイングライトは直視しないようにして下さい。

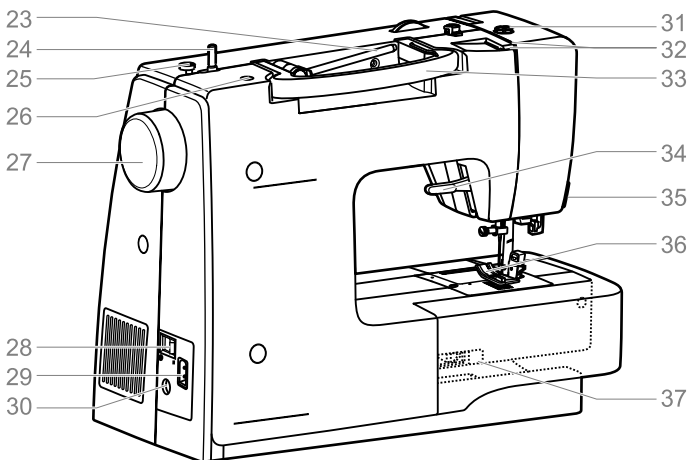
Class 1M LEDの製品です。

安全にご使用いただくために	1	ソーイングの基本	31
目次	3	知っておくと役に立つテクニック	31
ミシン本体について	4	直線縫いと針基線について	33
主要部分の名称について	4	ジグザグステッチ	33
アクセサリ	5	ストレッチステッチ	34
ミシンの設定について	6	オーバーキャストステッチ	35
ミシンを電源に接続するには	6	まつり縫い	36
フットコントローラー	6	ボタン付け	37
ソーイングテーブル	7	ボタンホールの縫い方	38
クイック説明書用引き出し		アイレットステッチ	41
および押え金用収納庫	7	ダーニングステッチ（繕い縫い）	42
下糸の巻き方	8	ファスナー付け	44
ボビンの挿入方法	10	コンシールファスナーの縫付け	46
針の取付けと取り外し方	11	幅の狭い巻き縫い	47
上糸のかけ方	12	コーディング	48
自動糸通し	14	サテンステッチ	49
下糸の引き上げ方	15	キルティング	50
糸カッター	15	ファゴッティング	52
糸調子について	16	スカラップ縫い	52
押え圧の調節	16	ギャザリング	53
押え金の交換	17	スモッキング	54
2段式押え金	18	フリーモーション繕い縫い、	
送り歯の上下方法	18	刺しゅうおよびモノグラミング	55
ステッチのバランスを調整するには	19	ウォーキング押え	57
ソーイングに関する重要事項	20	特殊機能について	58
針、布および糸の選び方ガイド	20	パターンを反転させる	58
押え金チャート	21	ステッチパターンの拡大	59
表示の説明	22	二本針	60
液晶画面について	22	ヘルプ機能	62
操作方法	23	警告機能	63
ボタンの説明	23	ブザーの音	64
通常機能ボタン	24	メモリー機能	65
その他の機能ボタン	26	メンテナンスについて	70
ステッチについて	28	クリーニング	70
		LEDランプの交換	70
		トラブルシューティング	71
		トラブルかなと思ったら	71

主要部分の名称について



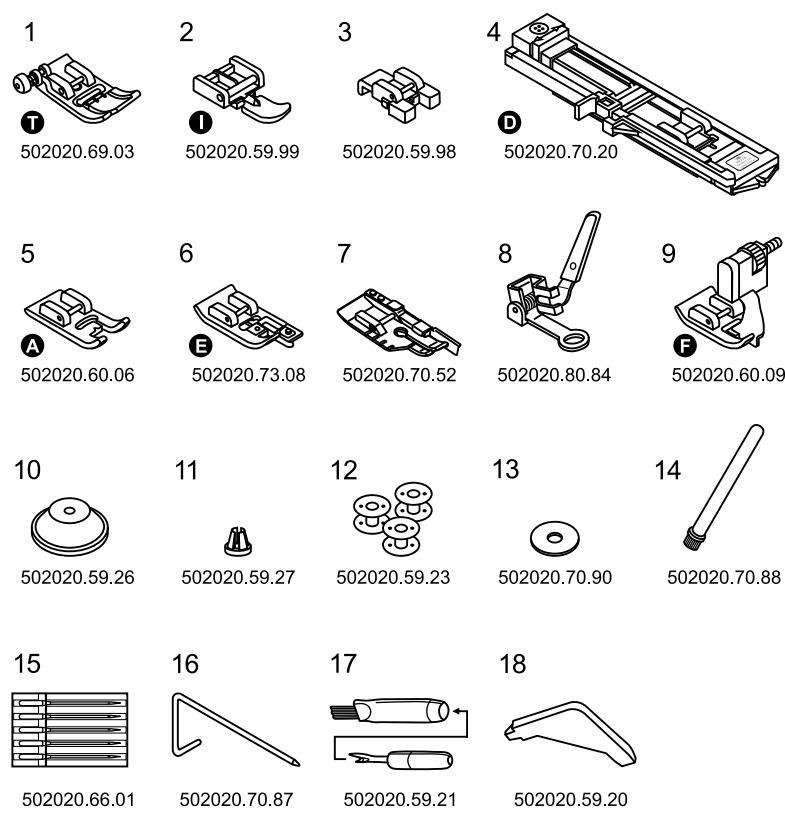
1. 下糸巻き用糸ガイド／プレテンション
2. 上糸天秤
3. スクロールボタン
4. 設定ボタン
5. スタート／ストップボタン
6. 針上下位置停止機能ボタン
7. オートロックボタンおよび模様縫い
8. 返し縫ボタン
9. ワンステップボタンホールレバー
10. 自動糸通し
11. 針板
12. ソーイングテーブルおよびアクセサリボックス
13. 糸調子調節つまみ
14. スピード調節レバー
15. 液晶画面
16. 振り幅調節つまみおよびメモリースクロールボタン
17. 送り長さ調節つまみ
18. パラメーター入力ボタン
19. メモリーボタン
20. パターンの直接選択ボタン／数字ボタン
21. パタングループ選択ボタン
22. クイック説明書用引き出しおよび押え金収納庫



23. 糸立て棒
24. 下糸巻き押え軸
25. 下糸巻取り装置ストッパー
26. 2本目の糸立て棒取付用穴
27. 弾み車
28. 電源スイッチ
29. 主電源プラグソケット
30. フットコントローラー用ソケット
31. 押え圧調節ネジ
32. 上糸ガイド
33. キャリングハンドル
34. 押え金レバー
35. 糸カッター
36. 押え金
37. 送り歯ドロップレバー

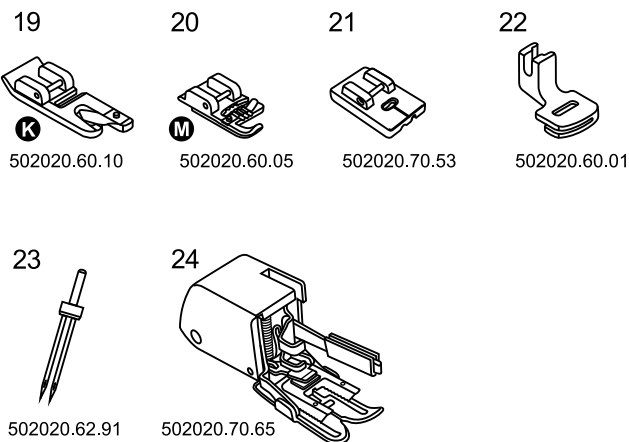
アクセサリ

標準アクセサリ



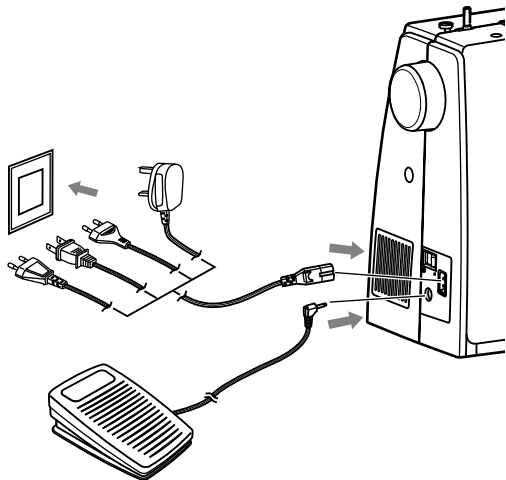
1. 標準押え(T)
2. ファスナー押え(I)
3. ボタン縫付け押え
4. ボタンホール押え(D)
5. サテンステッチ押え(A)
6. オーバーキャストイング押え(E)
7. 6ミリ幅キルティング押え
8. ダーニング押え
9. まつり縫い押え(F)
10. 糸コマホルダー(大)
11. 糸コマホルダー(小)
12. ボビン(3個)
13. 糸立て棒用フェルト
14. 糸立て棒(2本目)
15. 針パック(5セット)
16. シームガイド
17. シームリッパーおよびブラシ
18. L字型ネジ回し

別売りオプションのアクセサリ



19. 巻き縫い押え(K)
20. コーディング押え(M)
21. コンシールファスナー用押え
22. ギャザリング押え
23. 二本針
24. ウォーキング押え

ミシンを電源に接続するには



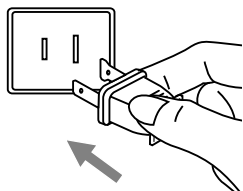
ミシンを電源に接続する前に、表示された電圧および周波数が、電源と適合していることをご確認ください。

ミシンは安定したテーブルに置いてご使用下さい。

1. 二つ穴のプラグをメインソケットに差し込んで、コードをミシンに接続します。
2. コンセントにプラグを接続します。
3. 電源スイッチをオンにします。
4. ソーイングライトが点灯します。

⚠️ ご注意

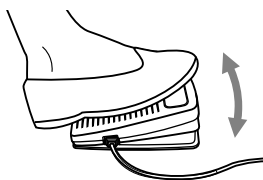
ミシンをご使用にならないとき、および部品の取り外しを行う際には、必ず電源をオフにして、電源プラグを抜いて下さい。



左右非対称プラグについて

この機種では、感電等の事故を防ぐため、左右非対称プラグ(プラグの歯のサイズが左右異なるもの)を使用しています。左右非対称プラグは、非対称プラグ専用の電源コンセントのみに接続可能です。プラグがきちんとはまらない場合には、左右逆にしてお試しください。それでも問題が残る場合には、市販の延長コードで非対称になっているものをお買い求め下さい。プラグの改造は、決してしないで下さい。

フットコントローラー



ミシンの電源を切った状態で、フットコントローラーのプラグをミシンのコネクタに接続します。

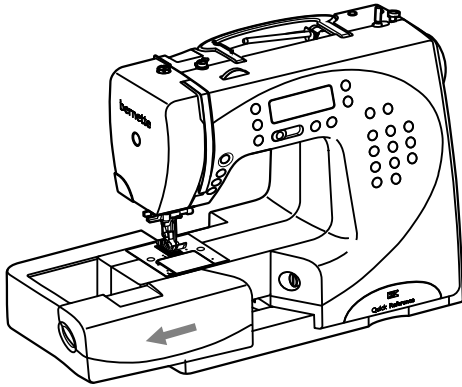
ミシンの電源を入れて、ゆっくりと踏み込むようにしながら、ソーイングを開始します。踏み込みをやめると、ミシンは停止します。

⚠️ ご注意

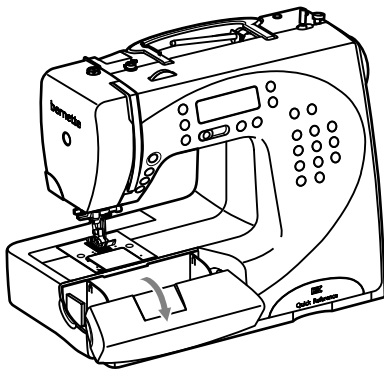
電源への接続に不安のある場合には、お買い求めいただいたお店にお問い合わせ下さい。ミシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いて下さい。

当機種に使用できるフットコントローラーはモデルC-9000です。

ソーイングテーブル

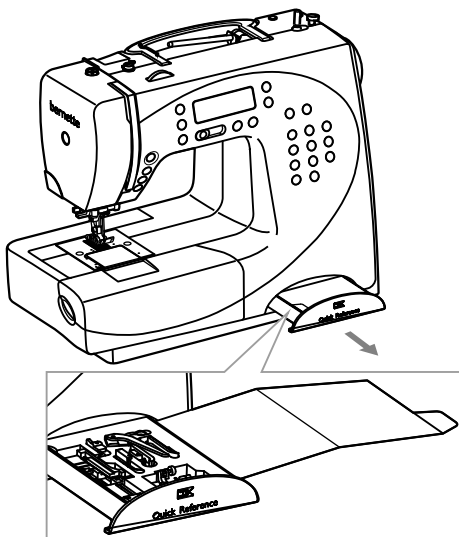


スナップ式ソーイングテーブルを水平に持ち、図の矢印の方向一杯に引き出します。



スナップ式ソーイングテーブルの内部は、アクセサリーボックスになっています。カバーを手前に引けば、開きます。

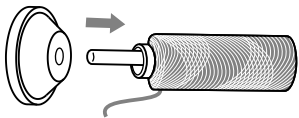
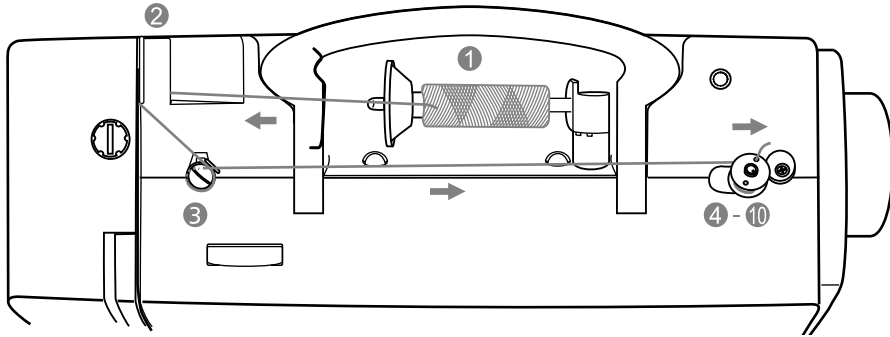
クイック説明書用引き出しおよび押え金用収納庫



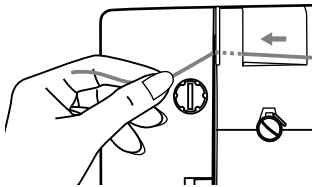
クイック説明書には、各ステッチおよびその使い方について、適した押え金等のお勧めの設定や、基本的な操作方法が載っています。

それに加えて、押え金用の収納庫があります。押え金をきちんと、取り出しやすいように収納することができます。押え金の位置および使い方については、クイック説明書の図をご覧ください。

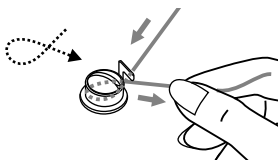
下糸の巻き方



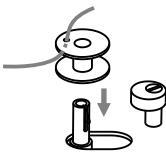
1. 糸および糸コマホルダーを糸立て棒にセットします。糸コマのサイズが小さい場合には、糸コマホルダーの小さい面を糸コマに当てるようにするか、小さなホルダーをお使い下さい。



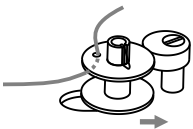
2. 糸を上糸ガイドに引っかけます。



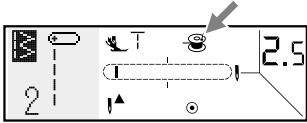
3. 手で糸を数回、下糸巻取装置のテンションディスクに、時計回りに巻き付けます。




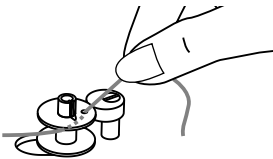
4. 図のように、糸端をボビン周囲の穴の一つに通して、空のボビンを下糸巻き軸に取り付けます。



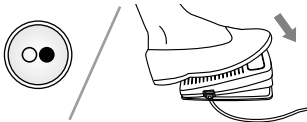
5. ボビンを右側に押し込みます。



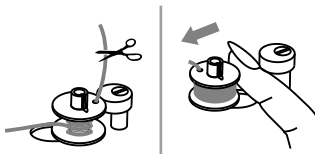
6. 下糸巻き軸を、ボビン巻取り位置である右側に押し込むと、液晶画面に「」のシンボルが表示されます。このシンボルは、下糸巻き軸を左側に戻すと、自動的に消えます。



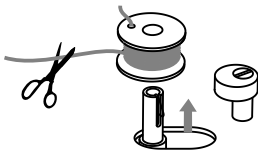
7. 糸端を手で持っておきます。



8. フットコントローラーを踏み込む、またはスタート/ストップボタンを押せば、下糸の巻き取りが開始されます。



9. 数回巻き取ったら、ミシンを一旦停止して、ボビン穴近くで余分の糸端をカットします。その後、一杯になるまで巻き続けます。ボビンが一杯になると、モーターは自動的に停止します。ミシンを停止して、下糸巻き軸を左側に戻します。



10. 糸をカットして、ボビンを取り外します。

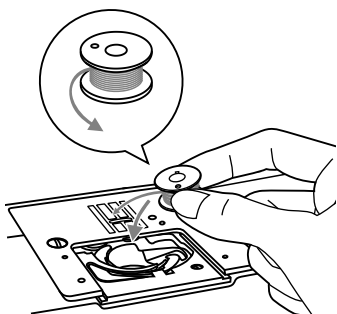
ご注意

下糸巻き軸を、ボビン巻取り位置である右側にセットした状態では、弾み車が回転せず、ソーイングはできません。ソーイングをするには、下糸巻き軸を「ソーイング位置」である左側に戻しましょう。

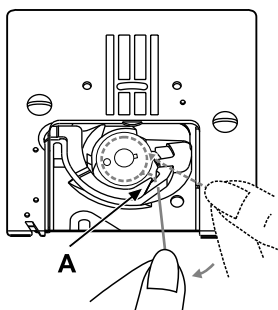
ボビンの挿入方法

⚠️ ご注意

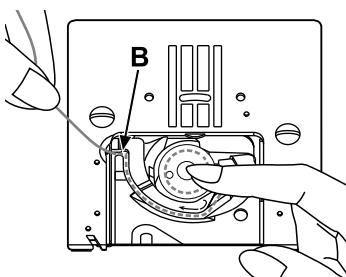
- ・ミシンの糸かけ、および糸を外すときには必ず電源スイッチをオフ「0」にして下さい。
- ・糸かけの際、上糸天秤が一番高い位置にあることをご確認ください。
- ・糸のかけ方を間違えると、ミシンを損傷する場合があります。ご注意ください。



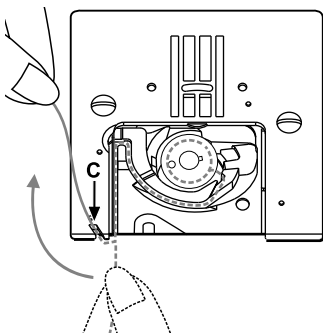
ボビンカバーを手前にスライドさせて、開きます。糸が時計と反対方向に回ることを確認して、ボビンをセットします。



糸を図の矢印方向に引いて、(A)のつもの下にあるスリットを通して、(B)の位置まで持ってきます。



糸がボビンホルダーのテンションパネに引っかかったことを確認するには、糸を引きながら、つもの部分を軽くボビンに押し付けるようにします。それで抵抗が感じられるようならば、きちんとできています。

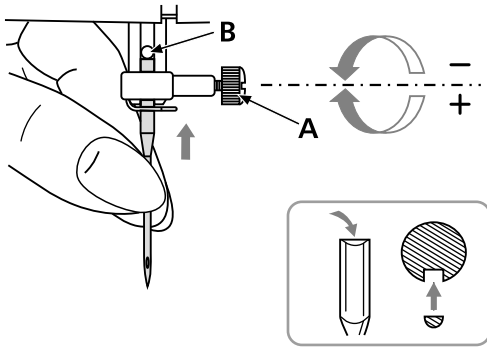


糸を矢印のように(B)の位置から(C)まで引いて、針板の糸ガイドに通します。余分の糸を、(C)の部分にあるカッターまで引いてきて、カットします。ボビンカバーを押し戻して、閉じます。

針の取付けと取り外し方

⚠️ ご注意

針の取付けおよび取り外しをする際には、電源スイッチをオフ「0」の位置にしてください。



針は定期的に変換するようにしましょう。特に針に傷がついていて、うまく縫えないような場合には、すぐに交換するようにして下さい。

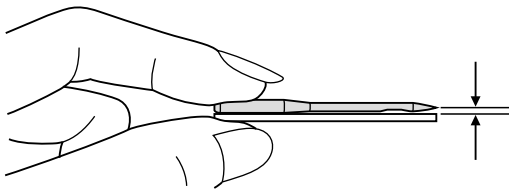
針の取付けは、図のように行います。

- A. 針止めネジをゆるめます。新しい針を取り付けたら、また締めます。針シャンクの平らな面を、後ろ向きに取り付けます。
- B. 針は最上点までしっかりと差し込むようにして下さい。

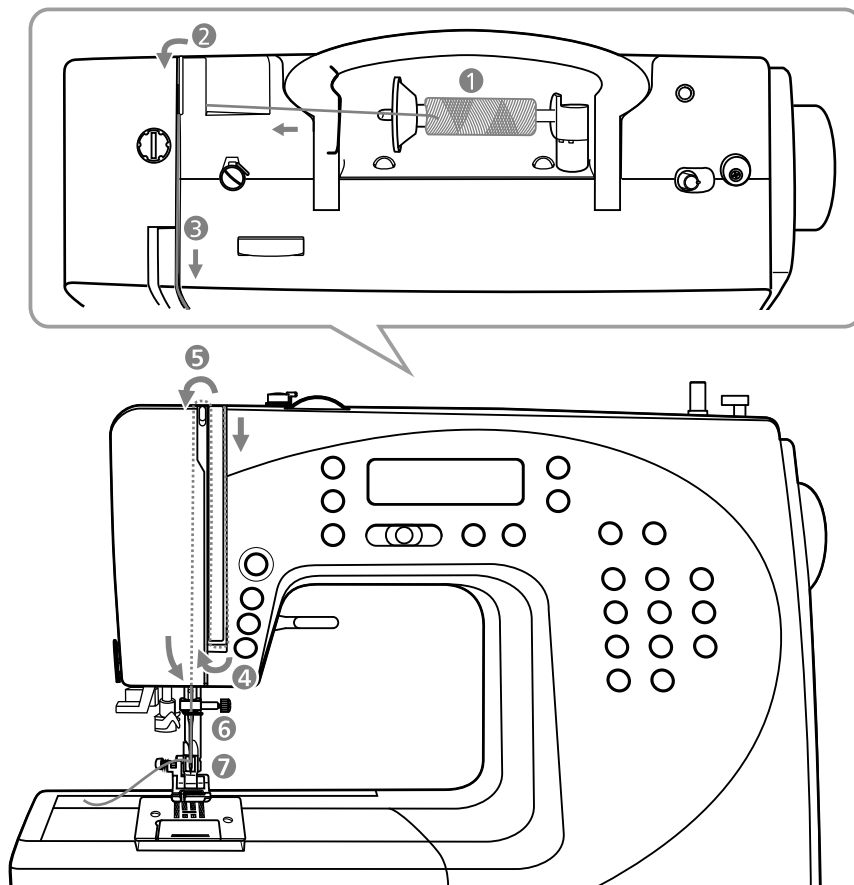
針は完璧なもののみをご使用下さい。

傷のついた針を使うと、うまく縫えません。

- 曲がった針
- 針先の鈍った針
- 針先に損傷のある針



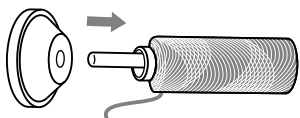
上糸のかけ方



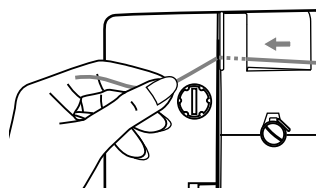
👉 ご注意

正しく糸掛けをしないと、うまく縫えません。

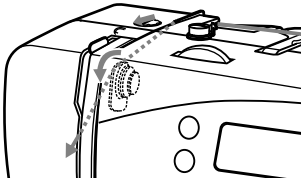
針を、最上点にあげておきます。また、テンションディスクを緩めるため、押え金も上げた状態にします。



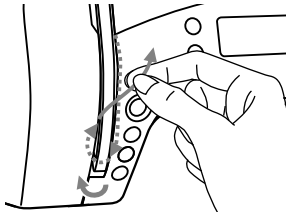
1. 糸立て棒を上げて、ミドルポジションでかちっとはめ込みます。糸コマを糸立て棒にセットして、糸が糸コマの前側から解けることを確認します。その後、糸コマホルダーで固定します。



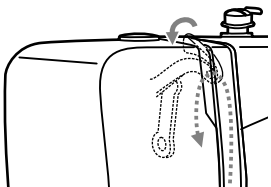
2. 上糸ガイドに糸をセットします。



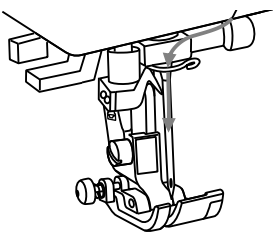
3. 糸を前方下に引いて、テンションスリットに入れます。



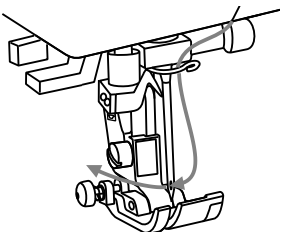
4. 糸を更に下に引いて、上糸天秤カバーの下を回るようにします。



5. 今度は糸を持ち上げて、糸を上糸天秤の穴の中に、右から左にかけて通すようにし、また下に進みます。

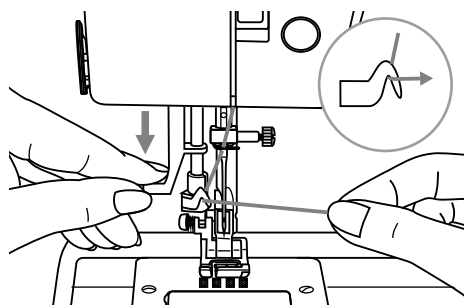


6. 糸をワイヤーのループの中に通します。



7. 糸端を針穴に、前から後ろに向けて通し、10センチほど引き出したら、糸カッターで余分の糸をカットします。針に糸を通すには、糸通しをご利用下さい。(次ページに使用方法の説明があります。)

自動糸通し

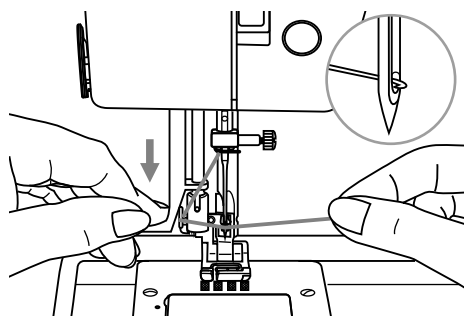


針を最上点に上げて、押え金を下げた状態にして下さい。

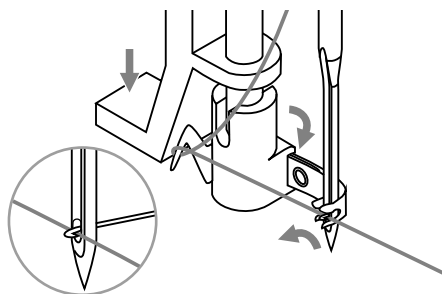
⚠️ ご注意

電源スイッチをオフ「0」にして下さい。

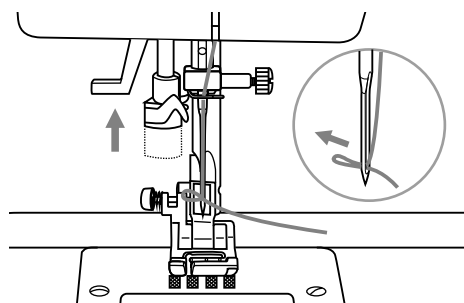
糸通しレバーをゆっくりと押し下げ、図に従って糸を糸ガイドに通してから、右側に引きます。



糸通しが自動的に糸通し位置に振れ、フックピンが針穴に刺さります。

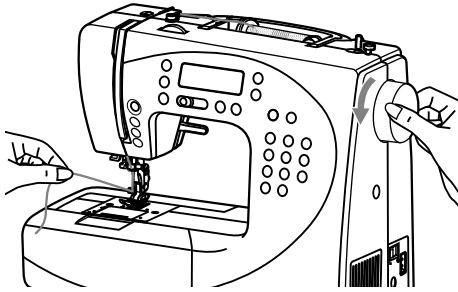


糸を、針の前を通過して右側に引きます。

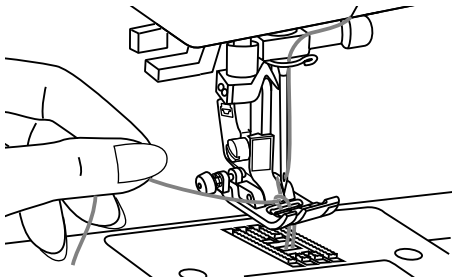


糸をゆるく持ちながら、レバーをゆっくりと放します。フックが回転して、糸を針穴から引き出し、ループ状にします。糸を完全に通したら、完了です。

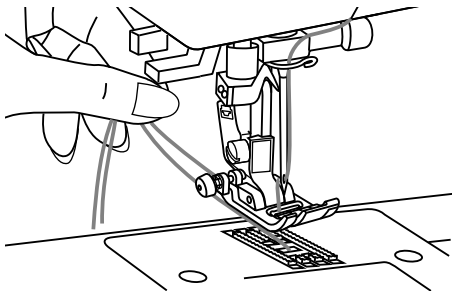
下糸の引き上げ方



上糸を左手で持ちます。弾み車を前方向に回して、針を上げます。

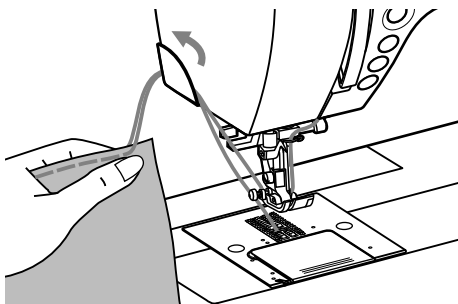


上糸をゆっくりと引くようにして、下糸を針板の穴からループ状に引き出します。



上下の糸端をそろえて、押え金の下を通して、後ろ側に引き出します。

糸カッター



糸カッターには、二つの役割があります。

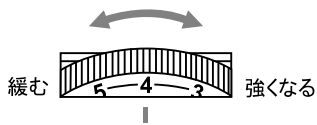
1. 針に糸を通した後、余分の糸をカットする。
2. 縫い終わりの糸をカットする。

縫い終わりに糸をカットする場合は、まず押え金を上げます。

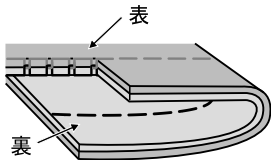
布を取り外し、糸を左側に引き出して、糸カッターでカットします。

糸カッターを使用すると、次の縫い始めに最適な長さに糸端をカットできますので、便利です。

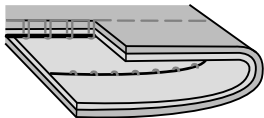
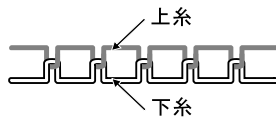
糸調子について



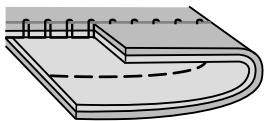
- ・基本のセッティングは、「4」です。
- ・糸調子を強くするには、つまみを「5」以上にしていきます。弱める場合は、「3」以下にします。
- ・きれいに縫うためには、糸調子の調整が不可欠です。
- ・飾りステッチでは、布の裏側に上糸が少し出るくらいの方が、布の引きつれが少なく、きれいに仕上がります。



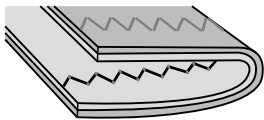
直線縫いの通常の糸調子です。



直線縫いで糸調子が弱すぎると、このようになります。つまみを大きな番号の方向に回しましょう。



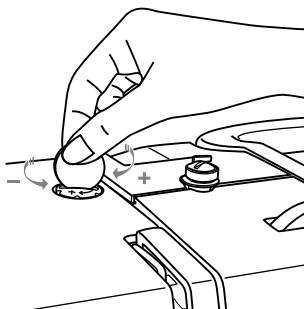
直線縫いで糸調子が強すぎると、このようになります。つまみを小さな番号の方向に回します。



ジグザグおよび飾りステッチの通常の糸調子です。



押え圧の調節



ミシンの押え圧は最初にセットされており、通常のソーイングに関しては調整の必要はありませんが、必要に応じて、押え圧調整ネジをコイン等で回転させることで変更できます。

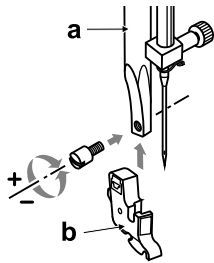
非常に薄い布を縫う場合には、ネジを時計と反対方向に回して、圧力を弱めることができます。厚い布の場合には、時計回りに回して、強めることができます。

最初にセットされた押え圧に戻すには、ネジの高さがミシンの外装カバーにぴったりと合うところまで回します。

押え金の交換

⚠️ ご注意

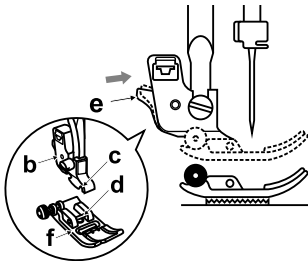
この作業を行う際は、必ず電源スイッチを「O」のオフにして下さい。



押え金ホルダーの取付け方

押え棒を上げます。(a)

押え金ホルダー(b)を図のように取り付けます。

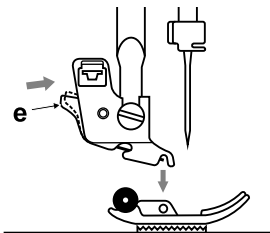


押え金の取付け方

押え金ホルダー(b)を下げ、(d)のピンが(c)の切り込み部分の真下に来るようにします。

黒いレバー(e)を押し込みます。

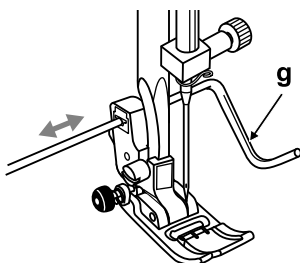
押え金ホルダー(b)を下げれば、(f)の押え金を自動的に取り付けられます。



押え金の取り外し方

押え金を上げます。

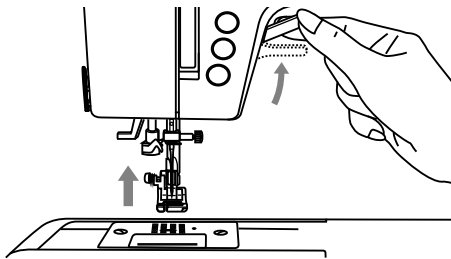
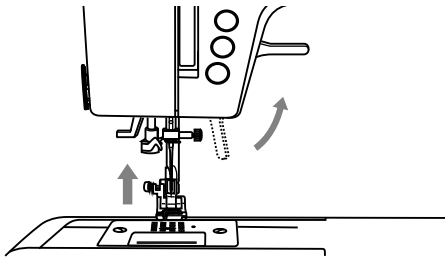
(e)の黒いレバーを押せば、押え金は外れます。



シームガイドの取付け方

シームガイド(g)を、図のように取り付けます。ヘム縫い、プリーツ縫い等の目的に合わせて、長さを調節します。

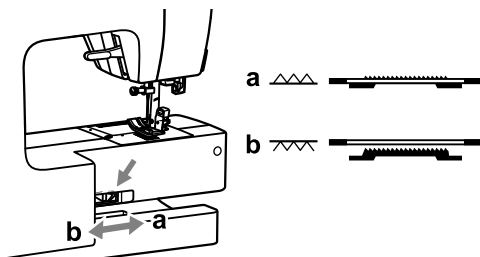
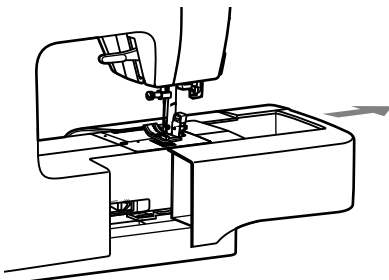
2段式押え金



押え金レバーを使えば、押え金を上下させることができます。

分厚い布を数枚重ねて縫う場合には、押え金レバーを上げることによって、押え金をもう一段階高い位置に上げます。これで布を簡単にセットすることができます。

送り歯の上下方法



送り歯ドロップレバーは、フリーアームの後部にあります。ソーイングテーブルを広げて、ご確認ください。

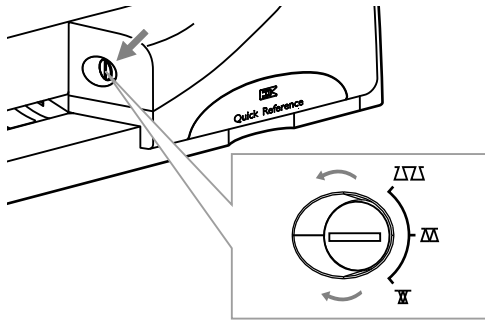
レバーを(b)の「▽」のシンボルの方にずらせば、送り歯を下げることができます。ボタン縫付けやフリーモーション刺しゅうに使用します。

続けて、通常のソーイングに移りたい場合には、レバーを(a)の「△」のシンボルの方にスライドさせて、送り歯を上げることができます。

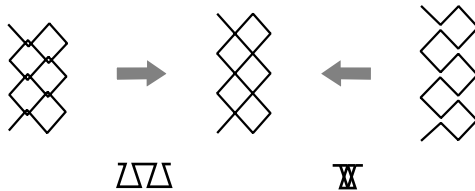
レバーが右側にある場合でも、弾み車を回転させるまで、送り歯は上がりません。送り歯を上げるには、弾み車を完全に一回転させて下さい。

ステッチのバランスを調整するには

飾りステッチ、数字の縫い取りおよび手動のボタンホールは、布の種類によって、パターンがくずれてしまうことがあります。そのような場合には、送りバランスつまみを回して調節しましょう。



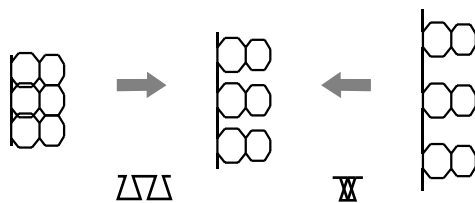
このつまみは、通常は中央位置にして縫います。



ストレッチステッチの調節方法

パターンが開き過ぎている場合には、つまみを時計回りに回します。

密になり過ぎてしまった場合には、つまみを時計と反対方向に回します。



文字または数字の調節方法

文字または数字が重なってしまった場合には、つまみを時計と反対方向に回します。

開き過ぎてしまった場合には、時計回りに回します。

針、布および糸の選び方ガイド

針サイズ	布の種類	糸
9-11/65-75	薄手のコットン、ポイル、サージ、シルク、モスリン、キアナ、インターロック、コットンニット、トリコット、ジャージー、クレープ、ポリエステル、シャツおよびブラウス用生地	コットン、ナイロンまたはポリエステル製の細い糸
12/80	中くらいの厚さのコットン、サテン、ケトルクロット、セールクロス、ダブルニット、薄手のウール地	市販されている糸は、ほとんどが中くらいの太さのもので、この欄の針および布に使用することができます。合成繊維にはポリエステル糸を、天然繊維にはコットン糸を使うと、仕上がりがきれいです。いずれの場合にも、上糸と下糸は同一のものを使うようにして下さい。
14/90	中くらいの厚さのコットンダック、ウール、中厚手のニット、タオル地、デニム	
16/100	厚手のキャンパス、ウール、テント用生地、キルティング、デニム、インテリア用生地	ヘビーデューティの糸、カーペット用糸。(押え圧も大きな番号に合わせて、強めにします。)
18/110	厚手のウール、コート用生地、インテリア用生地、一部のレザーおよびビニール地	

重要

針サイズ、布の厚みおよび糸のサイズを合わせるようにして下さい。

針と布の選び方

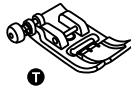









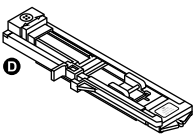









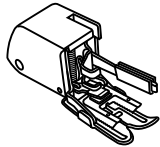

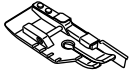

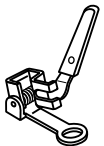


針	針について	布のタイプ
HA x 1 15 x 1	先の鋭い標準針。サイズは細い9(65)から太い18(110)まであります。	天然繊維の生地。ウール、コットン、シルク等およびキアナ。ダブルニットにはお勧めできません。
15 x 1/ 130/ 705H	セミボールポイント針で、スカーフあり。9(65)から18(110)まで。	天然繊維、合成繊維の生地、ポリエステル混紡、ポリエステル、インターロック、トリコット、シングルまたはダブルのニット地。15 x 1の針の代わりに、すべての布に使えます。
15 x 1/ 130/ 705H (SUK)	ボールポイント針で、9(65)から18(110)まで。	セーター用ニット、ライクラ、水着用生地、ゴム地。
130PCL/ 705H-LR/LL	レザー針。12(80)から18(110)まで。	レザー、ビニール、インテリア用生地。(通常の太い針よりも、布に残る針穴が小さくなります。)

ご注意

- 二本針は、実用、飾り用の両方に使うことができます。
- ヨーロッパの針番号は、65番、70番、80番のようになっています。アメリカおよび日本では、9番、11番、12番となります。
- 針はできるだけ頻繁に交換するようにして下さい。目安としては、衣類を2枚仕上げる毎に交換しましょう。また、糸が切れたり、針目が飛んだりしたら、すぐに交換しましょう。

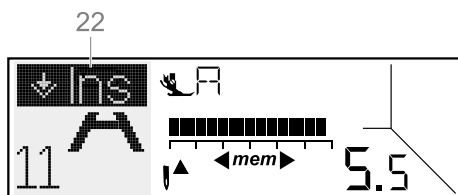
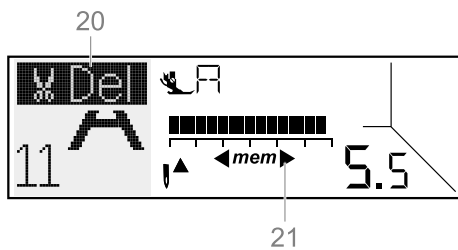
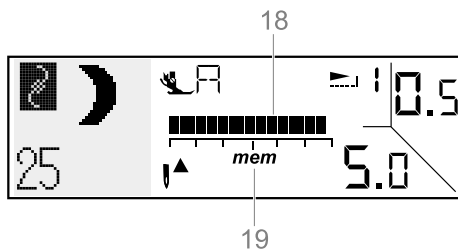
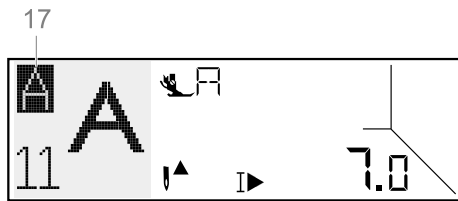
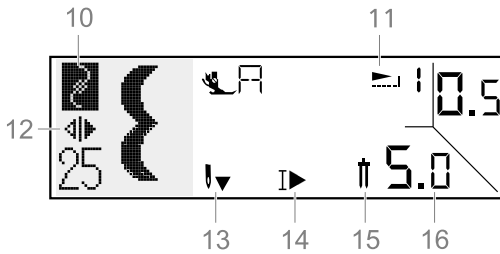
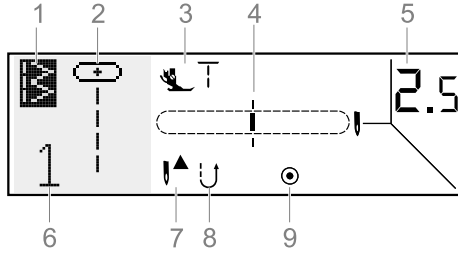
押え金チャート

二本針を使うと、よりクリエイティブな仕上がりになるステッチもあります。

押え金	適用	針	押え金	適用	針
 <p>標準押え</p>	通常のソーイング、パッチワークステッチ、飾りステッチ、スモッキング、ファゴッティング等		 <p>まつり縫い押え</p>	まつり縫い	
 <p>ファスナー押え</p>	ファスナーの縫い付け		 <p>巻き縫い押え※</p>	幅の狭い巻き縫い	
 <p>ボタン縫付け押え</p>	ボタンの縫付け		 <p>コーディング押え※</p>	コーディングに	
 <p>ボタンホール押え</p>	ボタンホールに		 <p>コンシールファスナー押え※</p>	コンシールファスナーの縫付け	
 <p>サテンステッチ押え</p>	サテンステッチ		 <p>ギャザリング押え</p>	ギャザリングに	
 <p>オーバーキャストイング押え</p>	オーバーキャストイングに		 <p>ウォーキング押え※</p>	縫いにくい生地を縫う際に針目がいびつにならないように縫うことができます。	
 <p>6ミリ幅キルティング押え</p>	キルティング、パッチワーク用				
 <p>ダーニング・エンブroidアリー押え</p>	つくろい縫い、フリーモーション刺しゅう、モノグラミングに		 <p>二本針※</p>		

※印のついたものは、別売りオプションのアクセサリです。

液晶画面について



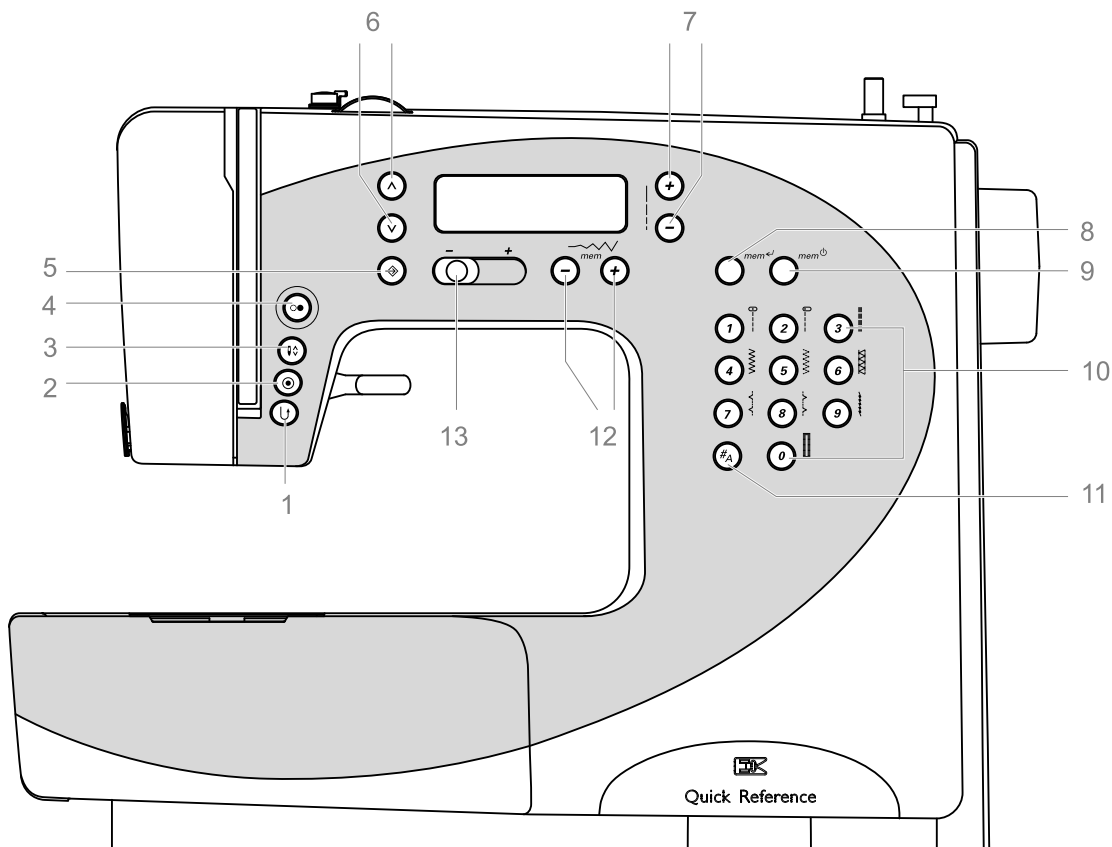
通常モード

1. パターングループの直接選択
2. パターンの図
3. お勧めの押え金
4. 針基線
5. 送り長さ(mm)
6. パターンの番号
7. 針上位置
8. 返し縫い
9. オートロック
10. グループ番号によるパターンの選択
11. 拡大
12. 反転されたパターン
13. 針下位置
14. 一模様縫いとオートストップ
15. 二本針機能
16. 振り幅(mm)
17. アルファベットグループ

メモリーモード

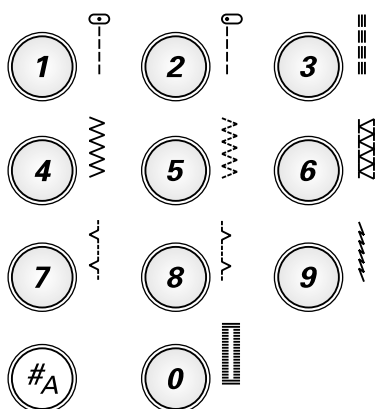
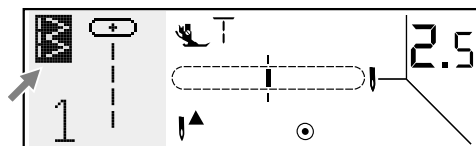
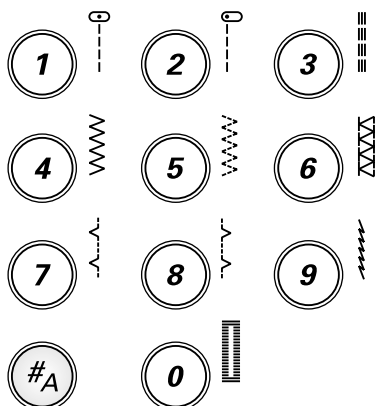
18. メモリーのバーグラフ
19. メモリーモードが起動している状態
20. 削除機能
21. メモリースクロール機能が起動している状態
22. 挿入機能

ボタンの説明



1. 返し縫いボタン
2. オートロックボタンおよび一模様縫いボタン
3. 針上下位置停止ボタン
4. スタート/ストップボタン
5. セットアップボタン
6. スクロールボタン
7. 送り長さ調節ボタン
8. パラメーター入力ボタン
9. メモリーボタン
10. パターンの直接選択ボタン/数字ボタン
11. パターングループ選択ボタン
12. 振り幅調節およびメモリースクロールボタン
13. スピード調節レバー


通常機能ボタン




パターングループ選択ボタン


このボタンを押すと、違うステッチパターンのグループを選択することができます。ステッチパターンには、3つのグループがあります。


それに加えて、メモリーモードでこのパターングループ選択ボタンを使うと、同時に2つの機能にアクセスが可能となります。

 直接選択パターン - 10

 数字によるパターン選択 - 55

 アルファベット - 95

 削除モード(メモリーモードのみ)

 挿入モード(メモリーモードのみ)

直接パターン選択ボタン/数字ボタン

直接選択パターングループがアクティブになっているときに、0-9のいずれかのボタンを押すと、ボタンの脇に表示されているパターンをすぐを選択することができます。

他の2つのパターングループを呼び出すには、二桁の番号入力が必要となります。

パターンの番号は、取扱説明書またはクイック説明書をご参照下さい。

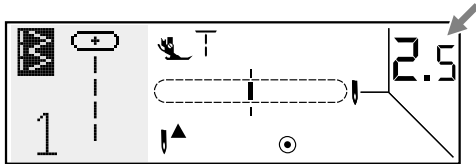
スクロールボタン

通常モードまたはメモリーモードで、このボタンを押すと、パターングループの中の前後のパターンに移動することができます。

セットアップモードでは、必要な機能を選択するのに押して下さい。

送り長さ調節ボタン

送り長さを短くするには、「-」ボタンを押して下さい。
長くするには、「+」ボタンを押して下さい。
送り長さは、0.0から4.5ミリの間で調節可能ですが、ステッチの種類によっては、制限があるものもあります。



ステッチを選択すると、ミシンが自動的に最適な送り長さを選択します。その数値は、液晶画面に表示されます。

振り幅調節およびメモリースクロールボタン

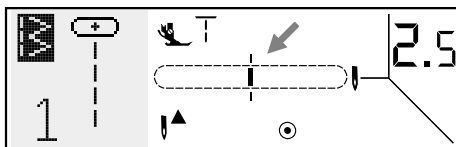
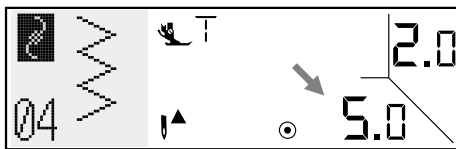
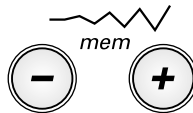
より幅の狭いステッチにするには、「-」ボタンを押して下さい。
より幅広のステッチにするには、「+」ボタンを押して下さい。

振り幅は、0.0から7.0ミリの間で調節可能ですが、ステッチの種類によっては、制限があるものもあります。
ステッチを選択すると、ミシンが自動的に最適な振り幅を選択します。その数値は、液晶画面に表示されます。

パターン番号01番から03番、または24番が選択されているとき、針基線が画面に表示されます。この位置は、振り幅調節ボタンによって、調節可能です。

「-」ボタンを押すと、針基線は左側に移動します。「+」ボタンを押せば、右側に移動します。全部で15の針基線があります。(左右にそれぞれ7、中央に1)

メモリーモードでは、振り幅調節ボタンは二つの働きをします。振り幅の調節という本来の機能、およびメモリー間の移動です。

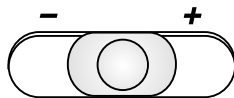


スピード調節レバー

スピード調節レバーの位置を操作することによって、ソーイングのスピードを制限することができます。レバーの位置により、フットコントローラーを一杯に踏み込んだときのソーイングスピードを決めることができます。

スピードを緩める場合には、「-」方向にスライドします。
早めるには、「+」方向にスライドして下さい。

ミシンをスタート/ストップボタンで操作している場合は、このレバーの位置が、今現在のソーイングスピードを決定します。



その他の機能ボタン



スタート/ストップボタン

スタート/ストップボタンを押して、縫い始めることができます。もう一度押すと、停止します。縫い始めは、ゆっくりと進み出します。

このボタンを使えば、フットコントローラー無しでミシンを操作することができます。

ボタンのライトの色が、今現在の状態を示します。

緑が点灯している場合・縫うことができます。

赤が点灯している場合・縫っている最中、または下糸巻取り中です。



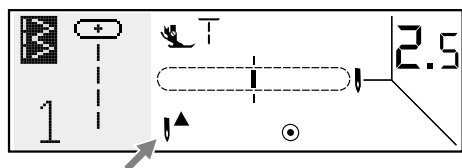
針上下位置停止ボタン

針上下位置停止ボタンを押すと、ステッチを半針分だけ進めた場所で、針を今現在の位置とは反対の、上下どちらかで停止することができます。

同時に、この停止位置がこれからの針の停止位置となります。針の停止位置は、液晶画面に表示されています。

ボタンを押して、液晶画面の矢印が上「↑▲」となれば、縫い終わりの時点で、針は上位置で停止します。

ボタンを押して、液晶画面の矢印が下「↓▼」ならば、縫い終わりの時点で、針は下位置で停止します。



⚠️ ご注意

縫っている最中に、針上下位置停止ボタンを押すと、その時点でミシンは自動的に停止します。

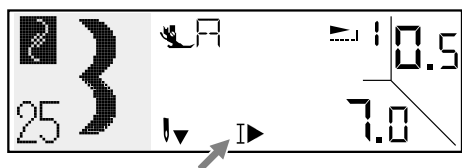
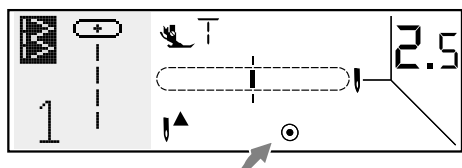


オートロックボタンおよび一模様縫い

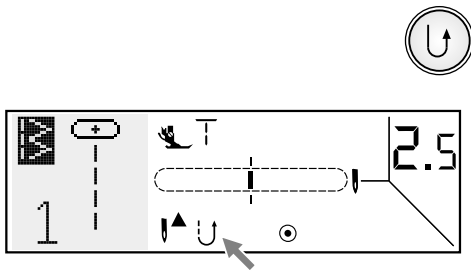
パターン番号01-05または24番が選択されている場合、オートロックボタンを押すと、ミシンはすぐに3針を止め縫いし、自動的に停止します。

液晶画面には、ミシンが停止するまで、「●」のシンボルが表示されます。

パターン番号01-05、10、24、および45-55番を除き、オートロックボタンを押すと、ミシンはパターンの最後に3針止め縫いをしてから、自動的に停止します。



液晶画面には、ミシンが停止するまで、「▶」のシンボルが表示されます。この機能は、ボタンを再度押すか、または他のパターンを選択すれば、解除されます。



返し縫いボタン

返し縫いをしたい場合には、このボタンを押します。液晶画面に「U」の矢印が表示されて、返し縫いをしていることを示します。

パターン番号01-05および24番のみ、返し縫いをすることができます。

このボタンを押すと、ミシンはずっと返し縫いを続けますので、前進する場合には、もう一度ボタンを押して下さい。

縫い始める前にボタンを押して、手を放してしまうと、ミシンはずっと返し縫いを続けます。もう一度ボタンを押すと、元に戻ります。

セットアップボタン

セットアップボタンを押すと、セットアッププログラムが開きます。ここで、反転、拡大、二本針およびサウンド機能等、設定に変更を加えたり、ソーイングに関するヘルプを画面上に表示することができます。

このボタンの詳しい使い方については、「特殊機能」の項目をご覧ください。

メモリーボタン

メモリーボタンを押すと、メモリーモードに入ります。ここに、文字等のコンビネーションや飾りステッチを保存することができます。

メモリーボタンを再度押すと、メモリーモードを終了して、ダイレクトモードに戻ります。

👉 ご注意

パターン番号10、および45-55番はメモリーに記録することができません。

パラメーター入力ボタン

メモリーモードにおいて、このボタンを押すと、パターンの記録や編集ができます。

メモリーに保存されたパターンは、送り長さ、振り幅、反転、拡大等のパラメーターを変更することで、編集可能です。

このボタンの詳しい使い方については、「特殊機能」の項目をご覧ください。

模様ステッチについて

直接選択できるパターン

ステッチパターン	振り幅(ミリ単位)		送り長さ(ミリ単位)		押え金	機能						
	自動	手動	自動	手動		返し縫い	オートロック	拡大	反転/ 押え金	二本針	メモリー	
直線縫い	1		0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*			*	*
	2		0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*			*	*
トリプル直線縫い	3		0.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*			*	*
ジグザグ	4		0.0~7.0	2.0	0.3~4.5	T	*	*			*	*
三段階ジグザグ	5		2.0~7.0	1.0	0.3~4.5	T	*	*			*	*
ダブルオーバーロック	6		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	E		*		*/T	*	*
まつり縫い	7		2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	F		*		*/T	*	*
オーバーロック	8		2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	E		*		*/T	*	*
ストレッチステッチ	9		1.0~6.0	2.5	1.0~3.0	T		*		*	*	*
ワンステップ ボタンホール	0		2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D						

*: 調整可能です。


































番号によるパターン選択

ステッチパターン	振り幅(ミリ単位)		送り長さ(ミリ単位)		押え金	機能						
	自動	手動	自動	手動		返し縫い	オートロック	拡大	反転/ 押え金	二本針	メモリー	
直線縫い	01		0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*			*	*
	02		0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*			*	*
トリプル直線縫い	03		0.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*			*	*
ジグザグ	04		0.0~7.0	2.0	0.3~4.5	T	*	*			*	*
三段階ジグザグ	05		2.0~7.0	1.0	0.3~4.5	T	*	*			*	*
ダブルオーバーロック	06		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	E		*		*/T	*	*
まつり縫い	07		2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	F		*		*/T	*	*
オーバーロック	08		2.5~7.0	1.0	0.5~4.5	E		*		*/T	*	*
ストレッチステッチ	09		1.0~6.0	2.5	1.0~3.0	T		*		*	*	*
ワンステップ ボタンホール	10		2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D						
トリプルジグザグ	11		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*			*	*
ストレッチオ ーバーロック	12		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	E		*		*/T	*	*
ネットステッチ	13		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A		*			*	*
ユニバーサル	14		2.5~7.0	2.0	1.0~4.5	T		*			*	*
ブリッジングステッチ	15		2.5~7.0	1.5	1.0~4.5	T		*			*	*
ストレッチまつり縫い	16		2.5~7.0	1.5	0.5~4.5	F		*		*/T	*	*
ユニバーサル	17		2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T		*			*	*
スーパーストレッチ	18		2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T		*		*	*	*
シングルオ ーバーロック	19		2.5~7.0	1.0	1.0~3.0	T		*		*	*	*
ファゴッティング	20		2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T		*			*	*
標準オーバーロック	21		3.5~7.0	2.5	1.0~3.0	E		*		*/T	*	*
ブランケット (キルティングアプリケ)	22		2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T		*		*	*	*


*: 調整可能です。

👉 ご注意:

表中に灰色でマークされているパターンは、一模様を示しています。

ステッチパターン		振り幅(ミリ単位)		送り長さ(ミリ単位)		押え金	機能					
		自動	手動	自動	手動		返し縫い	オートロック	拡大	反転/ 押え金	二本針	メモリー
フェザー	23 	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A		*			*	*
ハンドルック キルティンク	24 	7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*			*	*
スカラップ	25 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*	*	*	*
トラペーズ	26 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*		*	*
クロスステッチ	27 	6.0	3.0~7.0	1.0	1.0~3.0	A		*		*	*	*
スクウェア	28 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*		*	*
サテンステッチ	29 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*	*	*	*
	30 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*	*	*	*
	31 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*	*	*	*
	32 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*	*		*	*
飾りステッチ	33 	7.0	2.5~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*			*	*
	34 	7.0	4.0~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*			*	*
	35 	7.0	4.0~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*		*	*	*
	36 	7.0	4.0~7.0	0.5	0.3~1.0	A		*			*	*
キルティンク ステッチ	37 	6.0	4.5~7.0	1.0	1.0~3.0	A		*			*	*
飾りステッチ	38 	5.0	3.0~7.0	2.5	1.5~4.5	A		*			*	*
クロスステッチ	39 	6.0	5.0~7.0	1.0	1.0~3.0	A		*			*	*
	40 	6.0	5.0~7.0	1.0	1.0~3.0	A		*		*	*	*
飾りステッチ	41 	7.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	T		*			*	*
	42 	7.0	4.0~7.0	2.5	1.5~3.0	A		*			*	*
	43 	7.0	5.0~7.0	2.0	2.0~3.0	A		*			*	*
	44 	7.0	4.0~7.0	3.0	2.5~4.5	A		*			*	*
ダーニング ステッチ	45 	7.0	3.5~7.0	2.0	1.0~2.0	D						
	46 	7.0	3.5~7.0	2.0	1.0~2.0	D						
ワンステップ ボタンホール	47 	5.5	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	D						
	48 	5.0	2.5~5.5	0.5	0.3~1.0	D						
	49 	6.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	D						
	50 	5.0	2.5~5.5	0.5	0.3~1.0	D						
	51 	5.0	2.5~5.5	0.5	0.3~1.0	D						
	52 	7.0	5.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D						
	53 	7.0	5.5~7.0	0.5	0.3~1.0	D						
	54 	6.0	3.0~7.0	1.5	1.0~3.0	D						
アイレットステッチ	55 	7.0	7.0,6.0,5.0	--	--	A						

*: 調整可能です。

 **ご注意:**

表中に灰色でマークされているパターンは、一模様を示しています。

アルファベット

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z

63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88
Ä Å Æ Ñ Ö Ø Ç Ü ä ã å æ ë è é ê ñ ö õ ø ì ç ü ù ß &

89 90 91 92 93 94 95
? ! _ ' , . -

🔍 ご注意

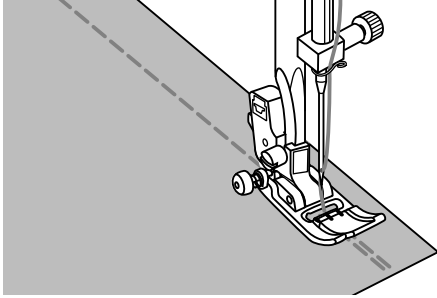
通常モードでは、すべての文字は最大高さ7ミリとなります。文字列を縫う場合には、手動で文字を整列させる必要があります。

E I J a b g h i j p y Å Æ è ø Ç ü 

文字列をメモリーに保存している場合には、ミシンが自動的に大文字を高さ5.5ミリで縫います。この場合、すべての文字は自動的に整列します。

E I J a b g h i j p q y Å Æ è ø Ç ü 

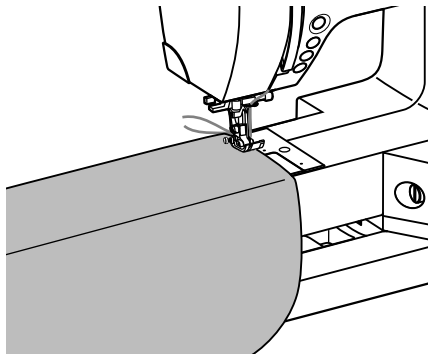
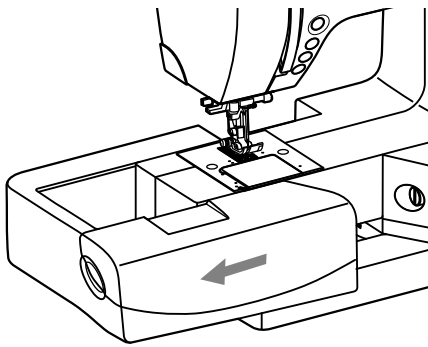
知っておくと役に立つテクニック



返し縫い

返し縫いは、縫い始めおよび縫い終わりで糸を止め縫いする方法です。

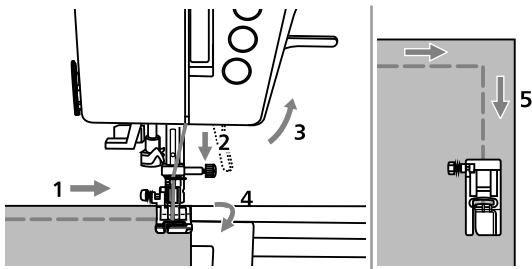
返し縫いボタンを押して、4針から5針縫います。
ボタンから手を離せば、ミシンは前進に戻ります。



フリーアーム

フリーアームソーイングは、筒状の部分を縫うのに便利です。

ズボンの裾、袖口等にお使い下さい。



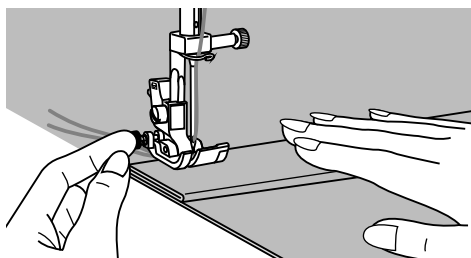
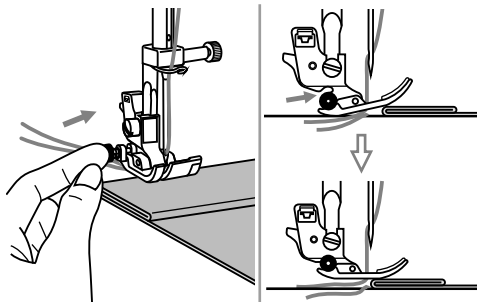
コーナー部分を縫うには

1. コーナー部分にさしかかったところで、ミシンを停止します。
2. 手動、または針上下位置停止ボタンで、針を布に刺した状態にします。
3. 押え金を上げます。
4. 刺さった針を中心に、布を回転させます。
5. 押え金を下げて、縫い続けます。

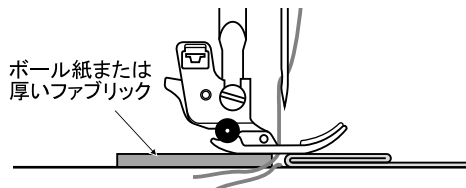
分厚い布を縫うには

押え金を下げる前に、左側にある黒いボタンを押すと、押え金を水平に固定することができます。これで縫い始めの送りを均等に保つことができますので、ジーンズの端縫い等、縫い目が重なって分厚くなった部分を縫うのに便利です。

特に分厚い部分まで来たら、針を刺した状態で、押え金を上げます。押え金のトゥ部分を水平に直してから、黒いボタンを押し、また押え金を下げて縫い続けます。



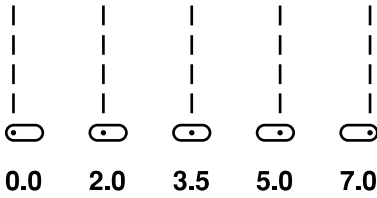
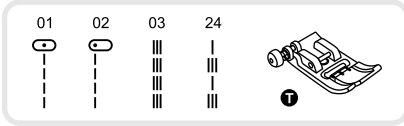
黒いボタンは、数針縫った後、自動的に元に戻ります。



ボール紙または厚いファブリック

また、布と同じ厚さのものを、縫い目に合わせて置いて縫うこともできます。または、手動で布を送りながら、押え金を支えて、分厚い部分に向かって縫い進めることも可能です。

直線縫いと針基線について



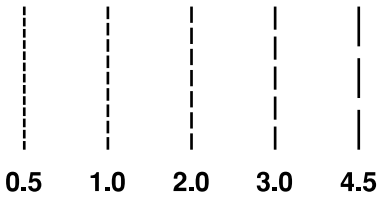
針基線の変更

この設定は、パターン番号01-03、および24にのみ有効です。

針基線は、初めは中央にセットされています。

振り幅調節ボタンの「-」を押すと、針基線は左側に移動します。「+」ボタンを押すと、右側に移動します。液晶画面上では、針基線のイラストおよび番号が表示されています。

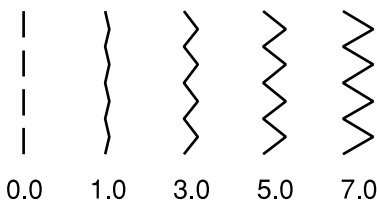
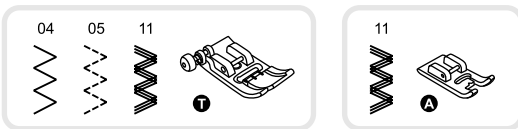
プログラム可能な針基線は、全部で15箇所あります。



送り長さを変更する

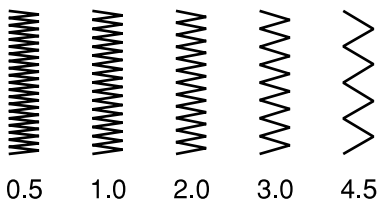
送り長さを短くするには、送り長さ調節ボタンの「-」を押します。長くするには、「+」を押します。一般的には、厚手の布と太い針と糸の場合には、送り長さも長くするとよいでしょう。

ジグザグステッチ



振り幅の調節

ジグザグ縫いの最大振り幅は、7.0です。どんな模様縫いでも、振り幅を調節することができます。振り幅の調節は、振り幅調節ボタンの「+」を押すことで、0.0から7.0の間で可能です。

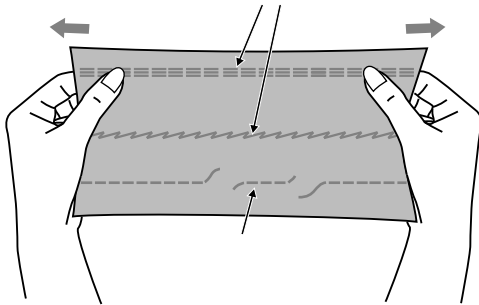


送り長さの調節

ジグザグ縫いのステッチ間の密度は、送り長さを0.3まで近づけることで、増やすことができます。

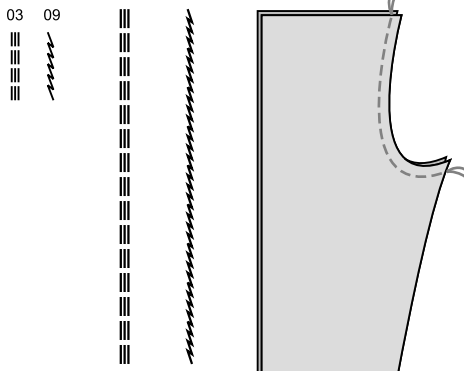
きれいなジグザグ縫いをするには、この値を1.0から2.5の間に設定するとよいでしょう。ステッチ間が非常に密なジグザグ縫いを、「サテンステッチ」と呼びます。

ストレッチステッチ

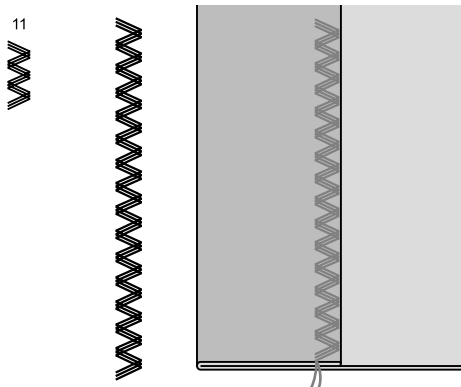


丈夫で伸縮性があるステッチです。布を伸縮させても、ステッチが切れてしまうことはありません。ほつれやすい生地や、ニット地に最適です。また、デニム地等の縫い合わせにも適しています。

飾り用のトップステッチにも使えます。

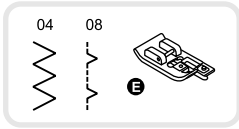


ストレッチ直線縫いは、よく伸びたり動いたりする部分を三重に縫うことで補強します。

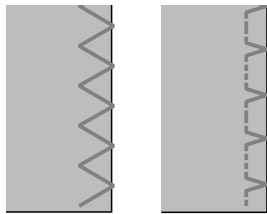
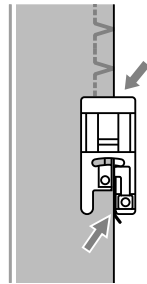
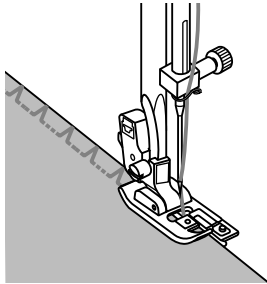


トリプルジグザグストレッチ縫いは、デニム、ポプリン、ダック等の固い生地に適しています。

オーバーキャストिंगステッチ



3.5~7.0	2.0~3.0



オーバーキャストिंग押えの使い方

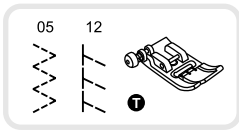
押え金をオーバーキャストिंग押え(E)に交換します。

押え金のガイド部分に布端を合わせて、縫い進めます。

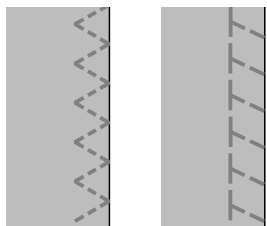
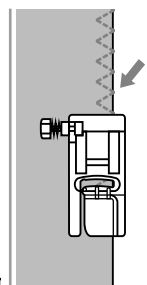
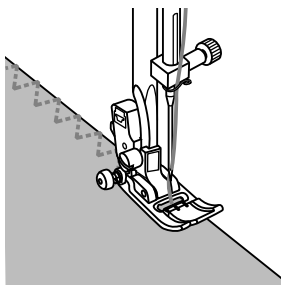
⚠️ ご注意

オーバーキャストिंग押えは、パターン番号04および08を縫うときのみに使います。その際、振り幅を3.5以下にはしないようにして下さい。

上記以外のパターンでは、針が押え金に当たって、折れてしまう危険がありますので、ご注意ください。



2.5~4.5	2.0~3.0

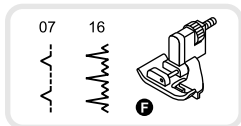




標準押えの使い方

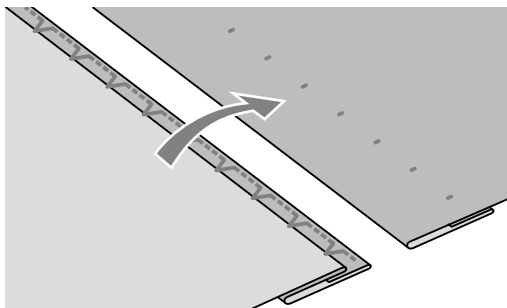
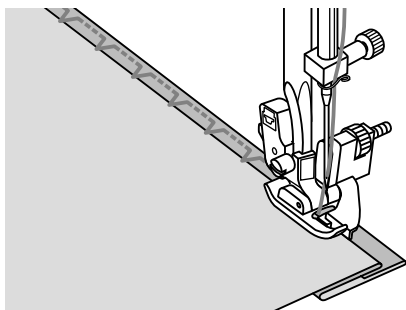
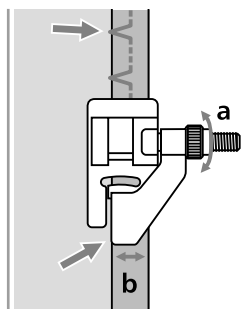
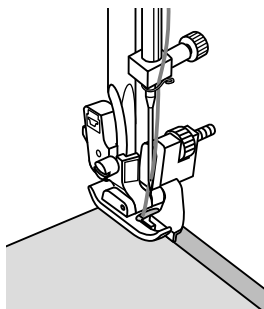
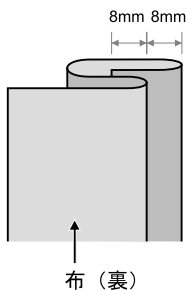
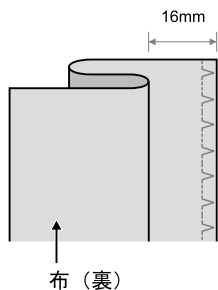
押え金を標準押え(T)に交換します。

布端をオーバーキャストして縫っていきます。その際、針が右側で、布の端を捉えながら縫うようにして下さい。

まつり縫い



	
2.5~4.0	1.0~2.0



07・固い生地用のまつり縫い／ランジェリーステッチ。

16・伸縮性のある生地には、まつり縫い。

➡ ご注意

ヘムのまつり縫いには、慣れが必要です。
縫い始める前に、必ず試し縫いをするようにして下さい。

布を図に従って、裏が上にくるよう折ります。
左側のイラストにあるように、まず最初にオーバーキャストイングステッチをかけて下さい。

布をマシンにセットします。弾み車を前に回して、針を左側に持ってきます。針が左側に来たとき、布の折り目を辛うじて刺す程度が理想です。

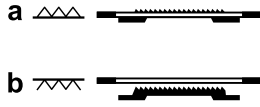
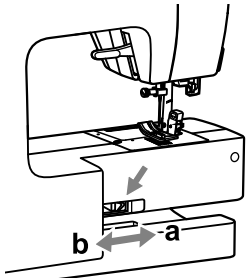
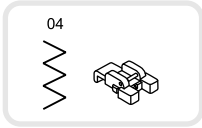
針が布を刺さない場合には、振り幅を微調整して下さい。

(a)のつまみを回して、(b)のガイドを調節し、ガイドが折り目に沿うようにします。

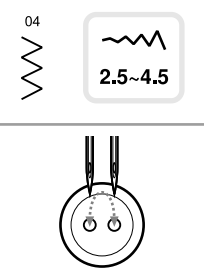
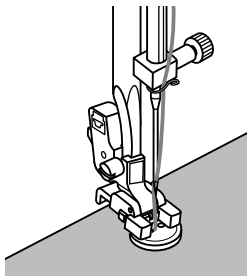
布をガイドの端に沿わせるようにして、ゆっくりと縫い始めます。

布を表に返します。

ボタン付け



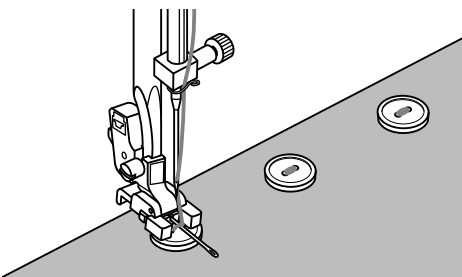
押え金をボタン縫付け押えに交換します。
送り歯ドロップ機構を使って、送り歯を下げます。



布をミシンにセットします。ボタンを縫い付けたい場所に置いて、押え金を下げます。

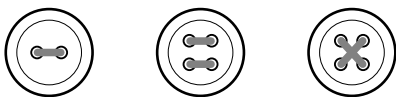
ジグザグパターンを選択します。振り幅は、ボタン穴に合わせて2.5から4.5の間にセットします。

弾み車を回して、針が左右両方のボタン穴を刺すことを確認します。



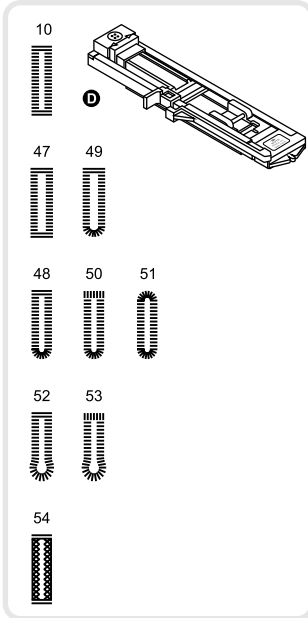
縫い始める前に、オートロックボタンを押して、縫い始めを自動的に補強します。縫い終わりも同様にします。






ボタンを浮かしたい場合には、縫い針等をボタンの上に置いて、その上をジグザグで縫います。



4つ穴ボタンの場合には、まず最初に前列の穴二つを縫い、その後、布を手前に移動して、後列の穴二つを縫うようにします。

ボタンホールの縫い方

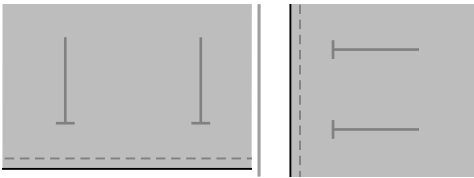


	-----
2.5~7.0	0.3~1.0
	-----
3.0~7.0	0.3~1.0
	-----
2.5~5.5	0.3~1.0
	-----
5.5~7.0	0.3~1.0
	-----
3.0~7.0	1.0~2.0

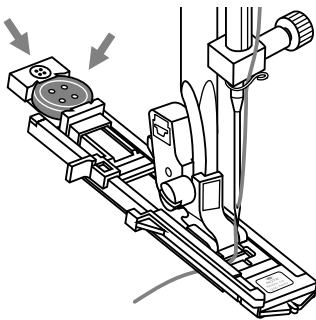
- 10・薄手から中くらいの布地用
- 47・薄手から中くらいの厚さのブラウスまたはシャツ用の水平なボタン穴用
- 48・薄手から中くらいの布地用
- 49・薄手から中くらいの厚さのブラウスまたはシャツ用の水平なボタン穴用
- 50・厚手の布地に縫う水平のボタン穴用
- 51・薄手から中くらいの布地用
- 52・スーツまたはオーバーコート用
- 53・分厚いコート用
- 54・ジーンズまたは目の粗い伸縮性のある布用

➡ ご注意

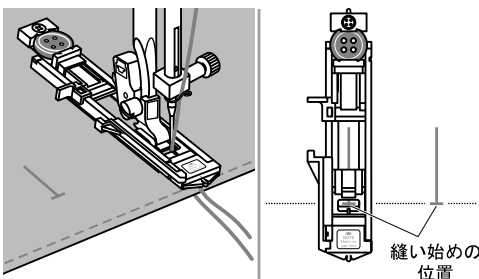
必ず作品と同じ布地の切れ端に、試し縫いをして下さい。



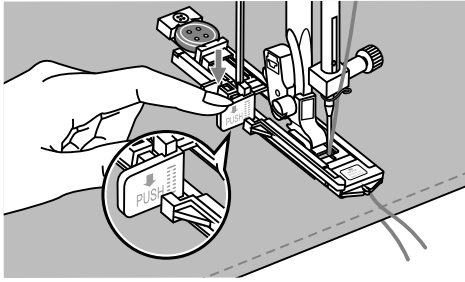
布にボタンホールの印をつけます。ボタンホールのサイズは、最長で3センチです。ボタンの直径+厚みで、計算します。



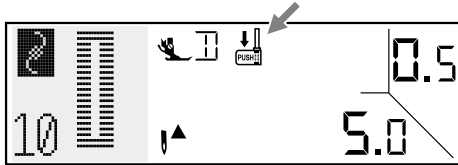
ボタンホール押えを取り付けてから、ボタンホルダープレートを引き出し、ボタンを挿入します。ボタンホールのサイズは、このボタンプレートに入れたボタンのサイズによって決定されます。糸は押え金の穴に通してから、押え金の下に置きます。



ボタンホールステッチを選択します。必要な幅と密度に合わせて、振り幅および送り長さを調節します。

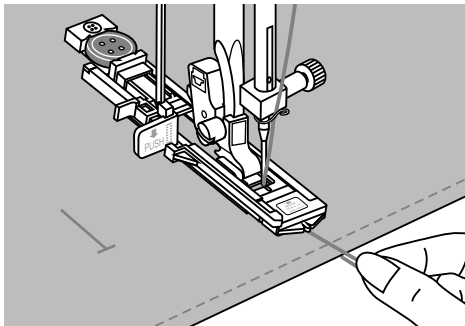


センターラインの印がボタンホール押えの中心に合うように、布をセットします。
ボタンホールレバーを下げます。



ご注意

ボタンホールパターン of どれを選択した場合でも、液晶画面には、「↓」のシンボルが表示されます。これは、ボタンホールのレバーを下げることを忘れないように、というご注意です。

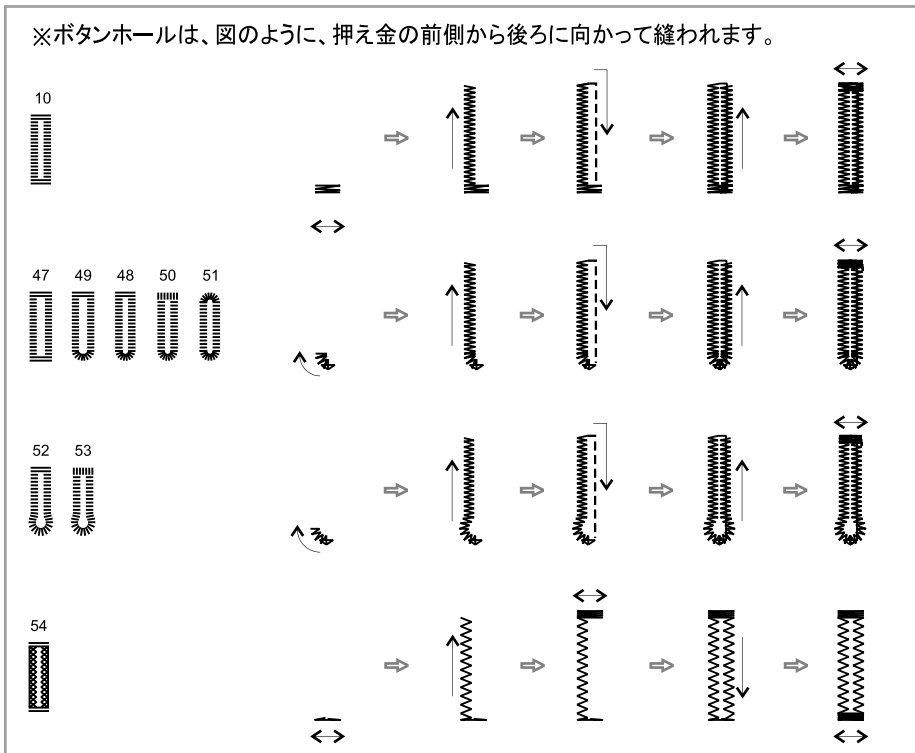


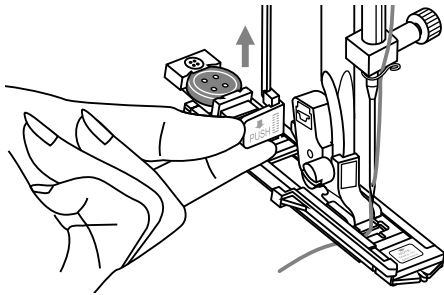
上糸の端を軽く持ちながら、縫い始めます。

ご注意

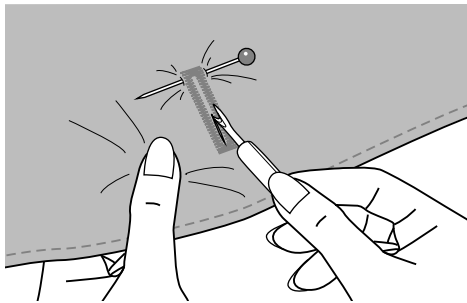
布を手でゆっくりと送ります。ミシンはボタンホールの完成後、縫い終わる前に、自動的に数針、止め縫いをします。

※ボタンホールは、図のように、押え金の前側から後ろに向かって縫われます。

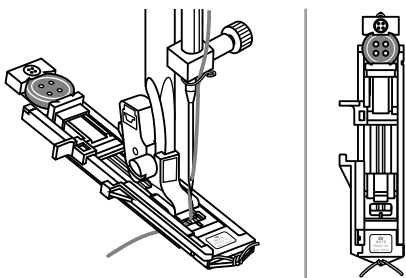




押え金を上げて、余分の糸をカットします。
 同じボタンホールの上から縫う場合には、押え金を上げます。(押え金は元の場所に戻ります。)
 ボタンホールステッチを縫った後、停止するまで、ボタンホールレバーを持ち上げた状態にします。



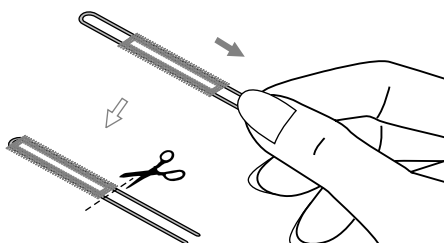
ボタンホールの中央を、ステッチを損ねないように気をつけながら、切り開きます。
 待ち針をストッパーとして使うと、切り過ぎないので便利です。



伸縮性のある布にボタンホールを作る

伸縮性のある布にボタンホールを作る場合には、ボタンホール押えに、芯糸となる太い糸またはコードを引っ掛けておきます。

ボタンホール押えを取り付けて、芯糸の中心を押え金の後ろ端に引っ掛けます。
 両端を手前に回して、押え裏の溝に仕込んだら、そこで軽く結んでおきます。押え金を下げて、縫い始めます。
 振り幅は、芯糸の幅に合わせてセットして下さい。

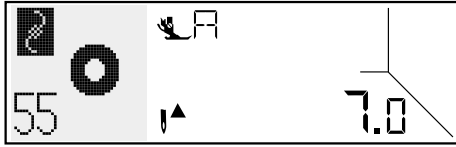


縫い終わったら、芯糸をゆっくりと完全に引き出して、余分をカットします。

👉 ご注意

布の裏に芯地を当てるとよいでしょう。

アイレットステッチ



パターン番号55を選択して、アイレットステッチを呼び出します。

サテンステッチ押え(A)を取り付けます。

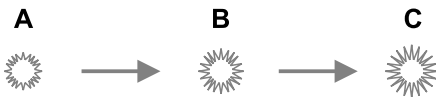
振り幅調節つまみの「-」または「+」を押して、アイレットのサイズを選択します。

アイレットのサイズは、以下のとおりです。

A. 小、5.0ミリ

B. 中、6.0ミリ

C. 大、7.0ミリ



縫い始めの位置に針を下げて、布を刺すようにしてから、押え金レバーを下げます。

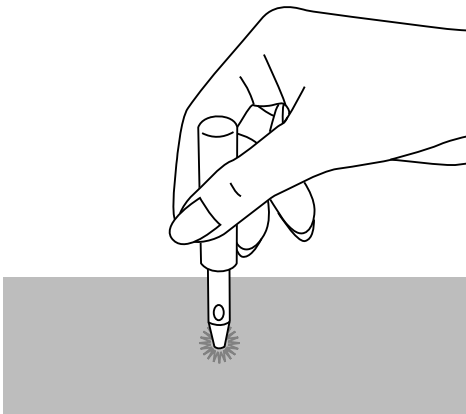
縫い終わると、ミシンは自動的に数針止め縫いをしてから、停止します。

アイレットパンチを使って、中心に穴を開けます。

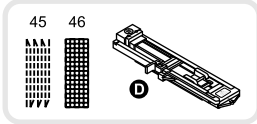
※ アイレットパンチは、ミシンのアクセサリーに含まれていません。

👉 ご注意

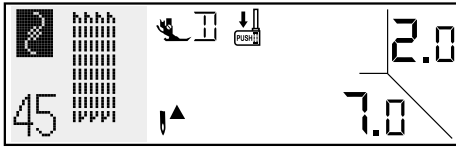
細い糸を使った場合、ステッチの目が粗くなる場合があります。そのような場合には、アイレットを二重に縫いましょう。



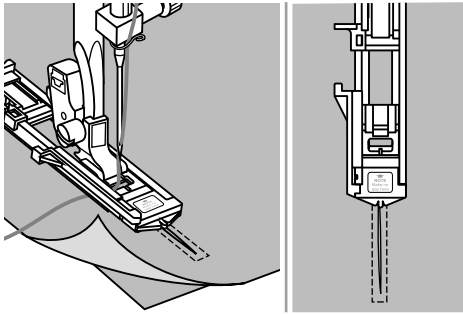
ダーニングステッチ(繕い縫い)



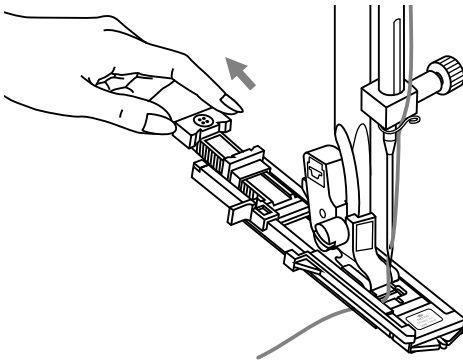
- 45. 薄手から中くらいの布用のシンプルなダーニングステッチ。
- 46. 厚手の布用の、補強されたダーニングステッチ。



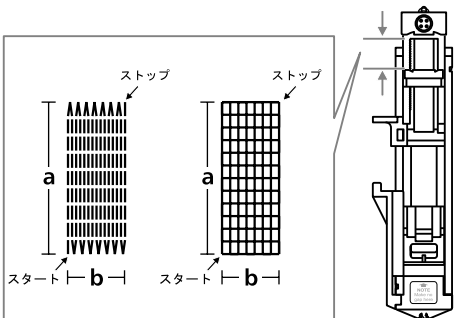
ステッチパターンの45番または46番を選択して、呼び出します。
押え金をボタンホール押えに交換します。



上下の布を、まずはしつけをかけて縫い合わせます。
針基線を選択し、破れた部分の中心あたりに、押え金を下げます。

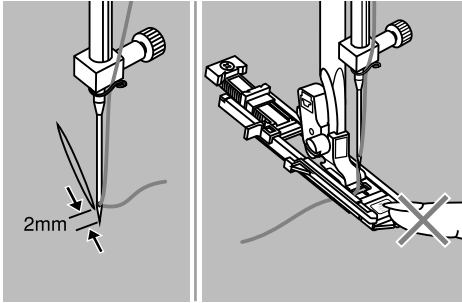


ボタンホルダーを後方に引き出します。
ボタンガイドプレートを、必要な長さに合わせて、ボタンホール押えの上に置きます。



ダーニングステッチのサイズは、いろいろ選択できます。
最大送り長さは、2.6センチです。
振り幅の最大値は、7ミリです。

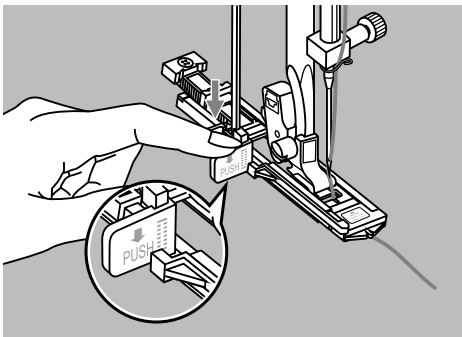
- a. 縫う長さ
- b. 縫う幅



針が、つくろいたい部分より2ミリ手前に来る位置に布を置き、それから押え金レバーを下げます。

➡ ご注意


押え金を下げるときに、押えの前部分を押し込んでしまうと、ダーニングのサイズが狂ってしまいますのでご注意ください。

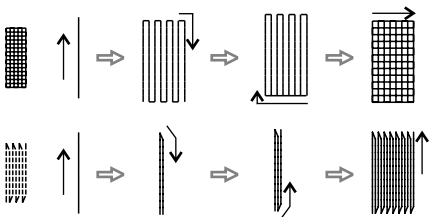


上糸を押え金の穴に通し、ボタンホールレバーを下げます。

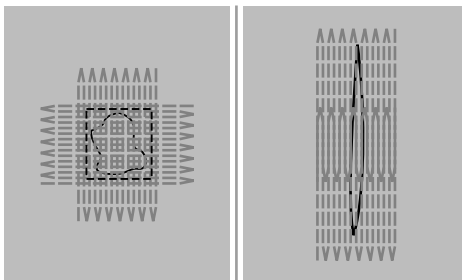
ボタンホールレバーは、押え金のブラケットの後ろ側にあります。左手で上糸の端を軽く持ちながら、縫い始めます。

➡ ご注意

ボタンホールパターンまたはダーニングパターンを選択すると、液晶画面には、「」のシンボルが表示されます。これは、ボタンホールのレバーを下げることを忘れないように、というご注意です。

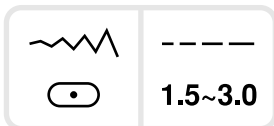
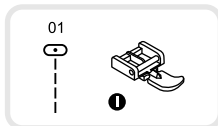


ダーニングステッチは、図のように、押え金の前から後ろに向かって縫われます。



縫いたい範囲が広い場合には、数回重ねて縫うか、クロスする形で縫うことをお勧めします。

ファスナー付け

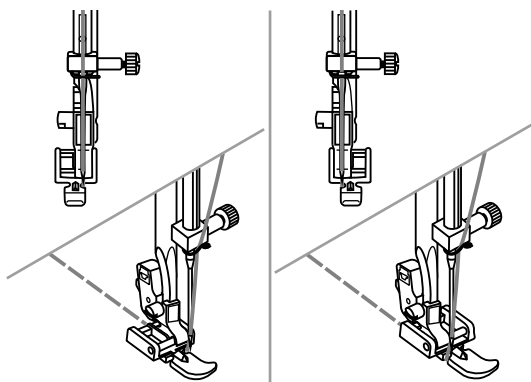
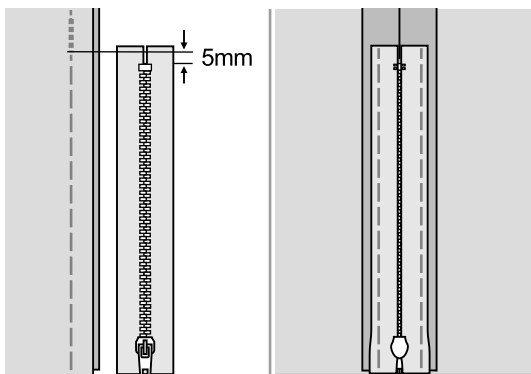


⚠️ ご注意

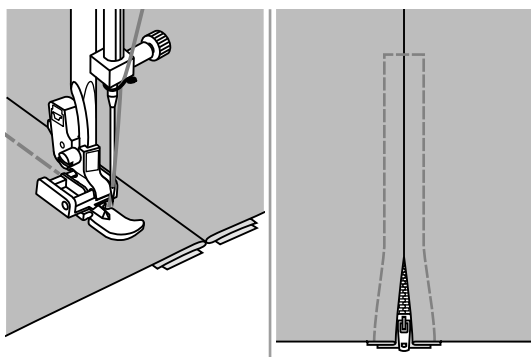
ファスナー押えは、針基線が中央の直線縫いのみに使用できます。他のパターンを縫うと、針が押え金にぶつかって折れてしまいますので、ご注意ください。

ファスナーを中央に縫い付けるには

- ・ファスナーを付けたい箇所を、しつけ縫いします。
- ・縫い代をアイロンで開きます。ファスナーを裏返しにして縫い代に当てます。その際、ファスナーの歯の部分を、縫い代の割れている中心線に合わせます。その後、ファスナー本体をしつけがけします。

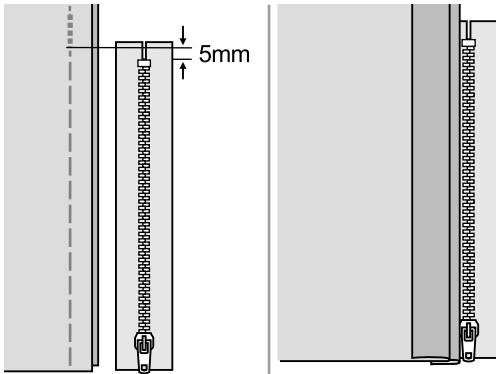


- ・ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側を縫う場合には、押え金のピンの右側をホルダーに取り付けるようにします。
- ・ファスナーの右側を縫う場合には、押え金のピンの左側をホルダーに取り付けるようにします。

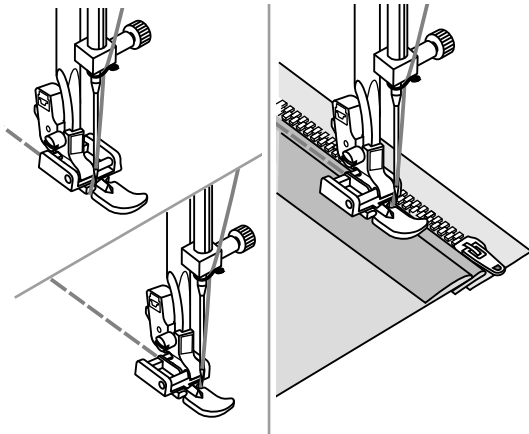


- ・ファスナーの左側を、上から下に向けて縫います。
- ・ファスナーの下端を縫い、右側に移って縫い続けます。縫い終わったら、しつけを解いて、アイロンをかけます。

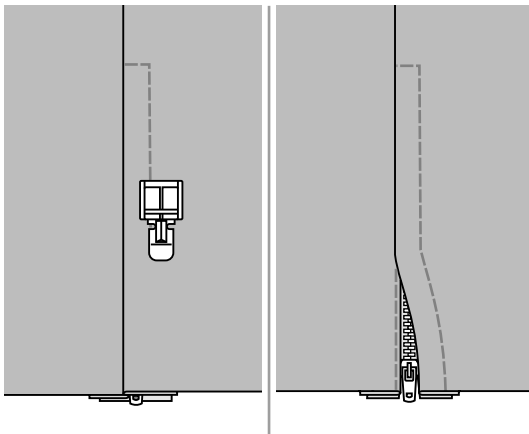
ファスナーを脇に縫い付けるには



- ファスナーを付けたい箇所を、しつけ縫いします。
- 左側の縫い代を裏に折り返します。右側の縫い代は、左端から3ミリはみ出すようにして、折ります。

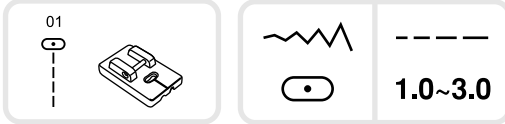


- ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側を縫う場合には、押え金のピンの右側をホルダーに取り付けるようにします。
- ファスナーの左側を、下から上に向けて縫います。

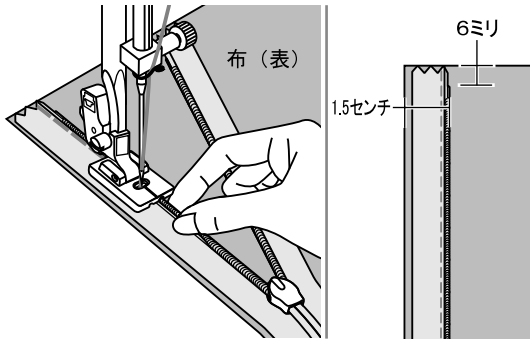


- 布を表返して、ファスナー下端を縫い、それから右側を縫います。
- ファスナーの上から5センチ程度のところで、一旦停止します。しつけを解き、ファスナーを開きます。それから残りを縫います。

コンシールファスナーの縫付け



※ コンシールファスナー用アクセサリーは、別売りオプションです。ミシンのアクセサリーには含まれていません。



この押え金は、コンシールファスナーの縫付け専用です。コンシールファスナーが縫い目でカバーされて、隠れるように縫い付けることができます。

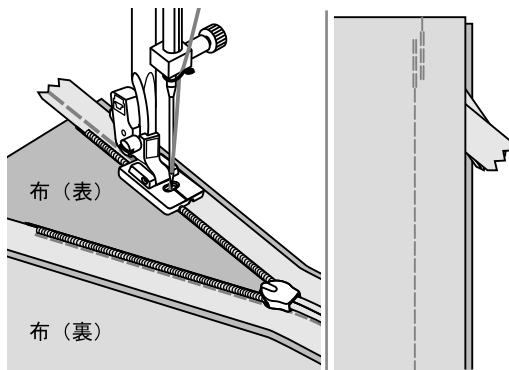
コンシールファスナー押えを取り付け、針基線が中央の直線縫いにセットします。送り長さは、布によって、1.0ミリから3.0ミリにセットして下さい。

開いたファスナーを裏返して、図のように布の表に合わせます。

布端は、針板の1.5センチの印に合わせます。

ファスナーを、布の裁ち端から6ミリ下に合わせます。

押え金右側の溝を、ファスナーの歯に合わせながら、ムシ部分の手前まで縫い、布をミシンから取り外します。



ファスナーの反対側を縫い付けるには、図のように、布端を針板の1.5センチの印に合わせます。

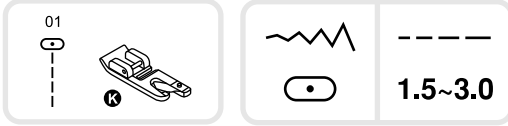
左側の溝をファスナーの歯に合わせながら、ムシ部分の手前まで縫います。

ファスナーを閉め、図のように、ファスナーが右側からはみ出すように、布を折ります。

布を待ち針で止めます。押え金は標準のソーイング用押えに交換し、直線縫いで、できるだけファスナーの近くを縫っていきます。

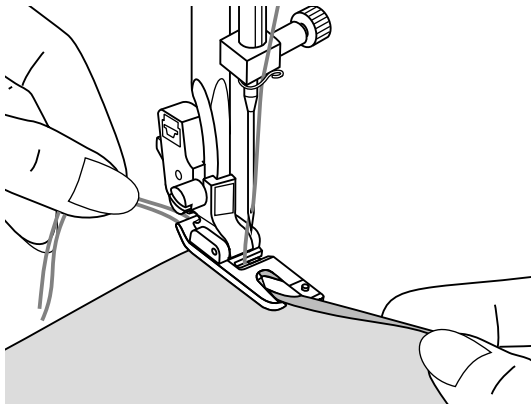
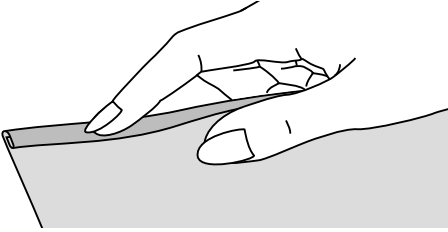
最後に、前後に数針ずつ返し縫いをして、固定します。

幅の狭い巻き縫い



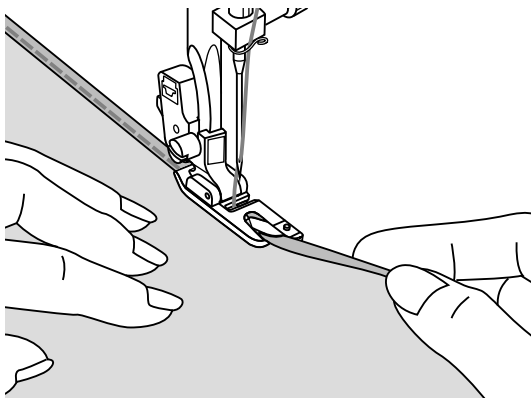
※ 巻き縫い専用押えは別売りオプションです。
ミシンのアクセサリーには含まれていません。

布の端を、5センチ程度のところまで、3ミリ幅で二重に折り返します。



弾み車を手前に回しながら、針が折り目を捉えるように刺し、押え金を下げます。数針縫ってから、押え金を上げます。

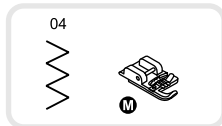
巻き縫い押えの中に、折った布端を挿入します。折り目が巻いた形になるまで、数回、布を前後させて下さい。



押え金を下げて、ゆっくり縫い始めます。

布端が押え金の前部分で均等に丸まるようにしながら、手で送っていきます。

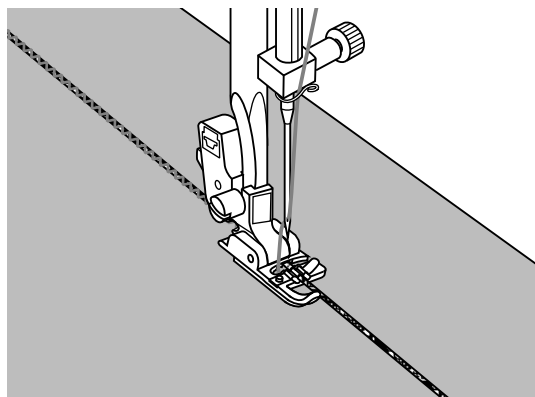
コーディング



※ コーディング押えは別売りオプションです。
ミシンのアクセサリーには含まれていません。

コードを1本使って、ジャケットやベストに素敵なデザインをしたり、三本取りにして、ボーダーのトリムに使ったりできます。

パールコットン、毛糸、刺しゅう糸、レース糸、細いウールやリリヤン等が使えます。



1本取りのコーディング

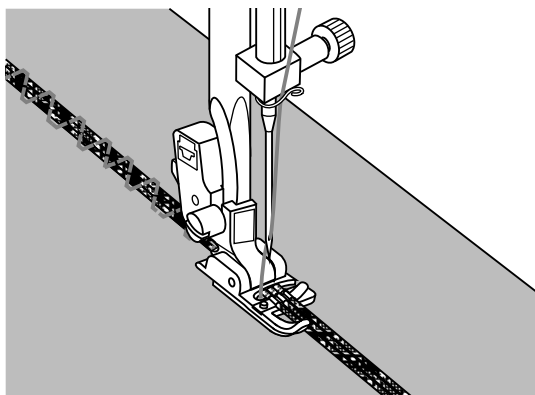
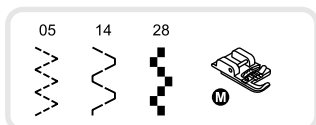
布にデザインを描いておきます。コードを押え金の右側の穴から、中央の溝に入れます。

コードは、押え金の後ろ側に、5センチ程度引き出ししておきましょう。

押え金下の溝は、ステッチする間、コードを押えておく役割をします。

ステッチを選択し、コードをカバーできるよう、振り幅を調節します。

押え金を下げて、ゆっくり縫い始めます。コードがデザインに沿うようにガイドして下さい。



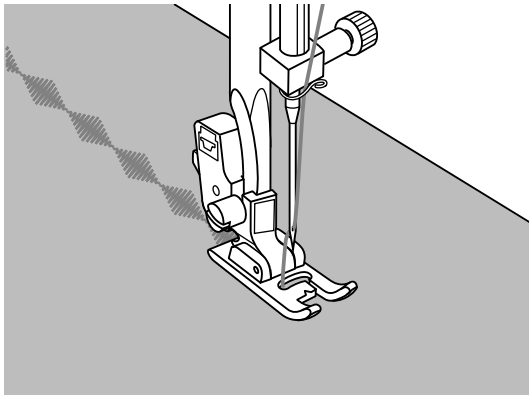
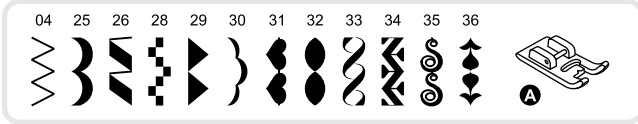
トリプルコーディング

縫い糸を左側に押しやり、3本のコードを溝に入れ、押え金の後ろ側に5センチ程度引き出ししておきます。

お好みのパターンを選択して、コードをカバーできるよう、振り幅を調節します。

押え金を下げて、コードをガイドしながら、ゆっくりと縫い進めます。

サテンステッチ



サテンステッチおよび飾りステッチには、サテンステッチ押えを使用します。

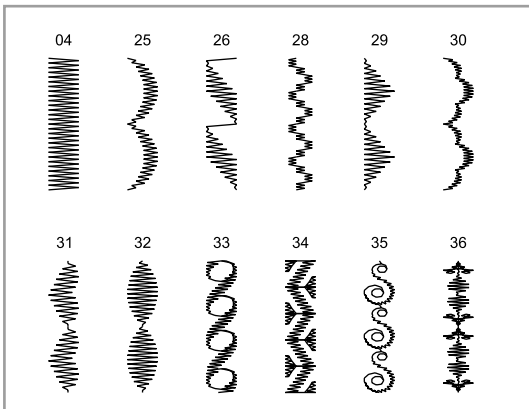
この押え金の底には開いた部分があり、ステッチの厚みを問題なく乗り越えて、均等に布を送ることができるようにデザインされています。

サテンステッチまたは飾りステッチのパターンは、送り長さや振り幅をボタンで調節することによって、さまざまに変化させることが可能です。

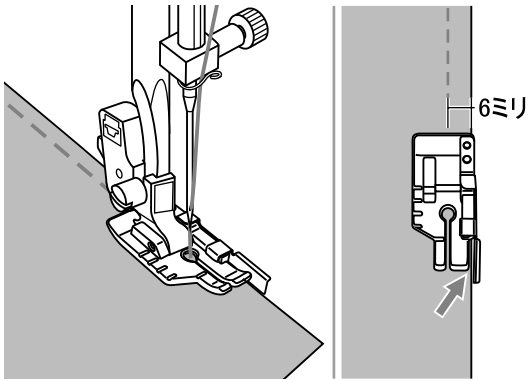
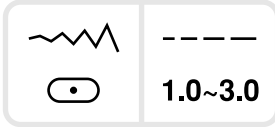
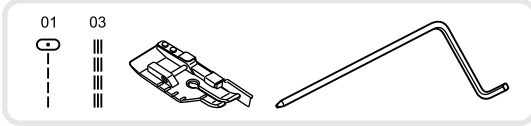
布端を使って、お好みのデザインを作るように実験してみてください。

➡ ご注意

非常に薄手の布を縫う場合には、布の裏に芯地を当てることをお勧めします。



キルティング



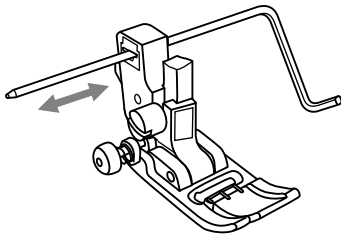
パッチワークステッチ

布の端をガイドの内側の端に合わせて、正確に6ミリの縫い代が保てるようにします。

👉 ご注意

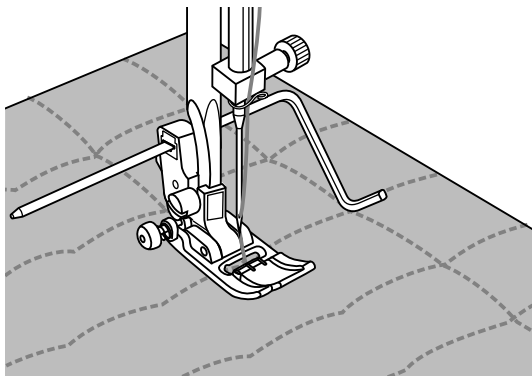
針基線中央の直線縫いのみ、使用可能です。

押え金トウ部分の内側は、正確に3ミリとなります。
押え金には、針の前後両方に6ミリの印があります。
コーナー部分を回転する場合にお使い下さい。

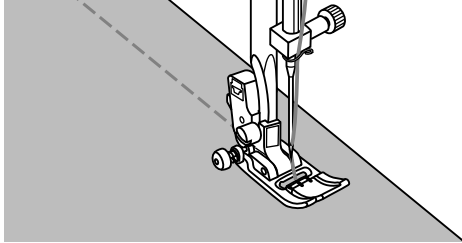
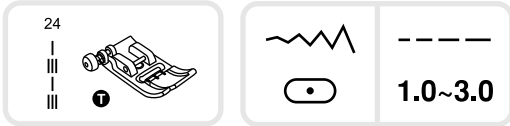


シームガイドの使い方

シームガイドを、図のように押え金ホルダーに挿入し、必要な幅にセットします。

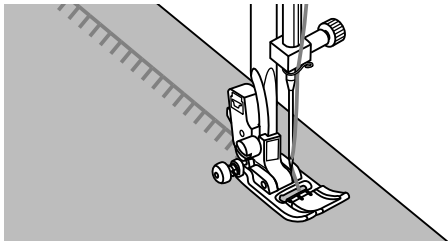


最初の一行を縫ったら、そのラインにガイドを合わせるようにして、次の列を縫っていきます。



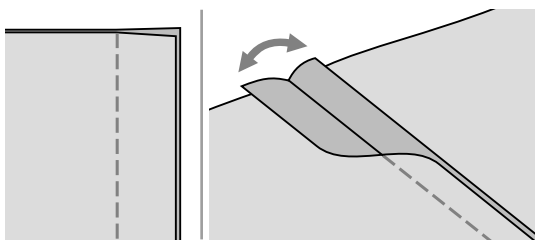
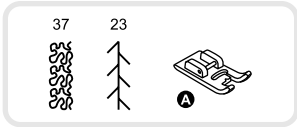
手縫い風キルティング

上糸に透明糸、下糸に30番または40番のコットン糸を使い、更に上糸の調子を強めることで、手縫い風のキルティングステッチをすることができます。
上糸の調子は、キルト芯の厚みに応じて決めます。



ブランケット(キルティング・アップリケ)

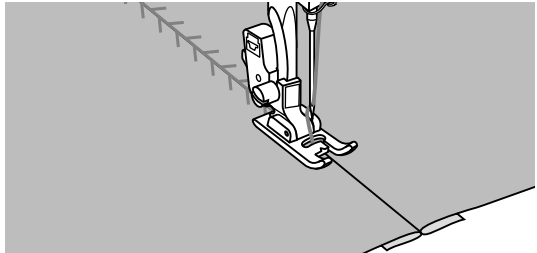
どんな種類の布、作品にも使用できます。



パッチワークステッチ

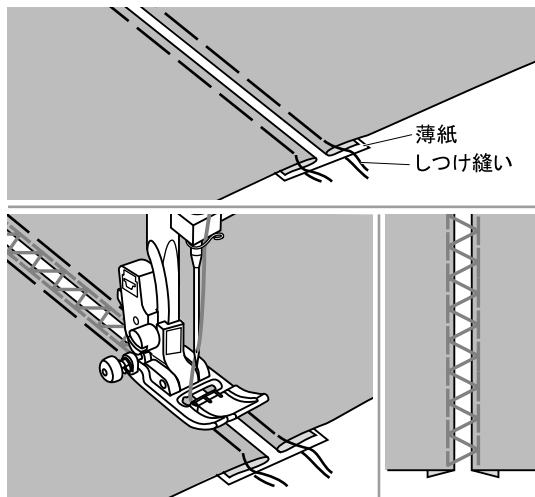
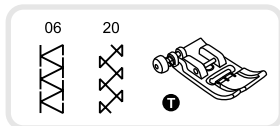
2枚の布を中表に合わせて、直線縫いで縫います。

縫い代を開いて、アイロンをかけます。



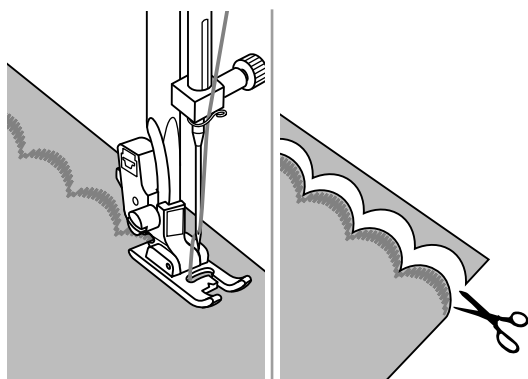
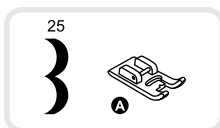
押え金の中心を縫い目に合わせて、縫い目の上を縫っていきます。

ファゴッティング



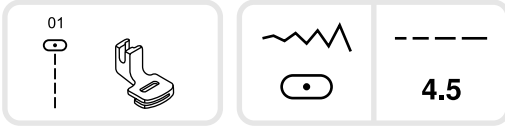
- 端を折り込んだ2枚の布を、4ミリの間を置いて突き合わせ、薄紙または水溶性安定紙の上にしつけ縫いします。
- 押え金の中心を、布の間に合わせて縫います。
- 縫い終わったら、紙を取り外します。

スカラップ縫い

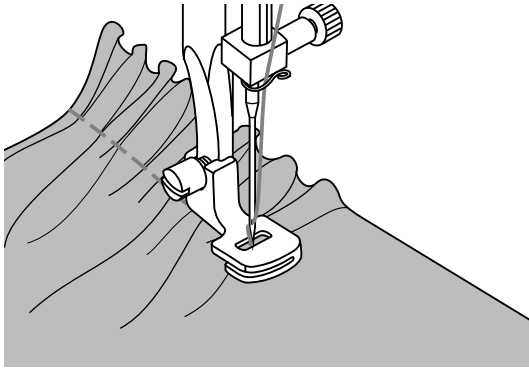


- 布端に沿って、縫っていきます。布端ギリギリに縫わないよう、ご注意ください。
縫う前に、スプレー糊とアイロンで布端を固くしておく、きれいに仕上がります。
- 縫い終わったら、布端をカットします。
ステッチを切ってしまうないように、ご注意ください。

ギャザリング



※ ギャザリング押えは別売りオプションです。ミシンのアクセサリーには含まれていません。

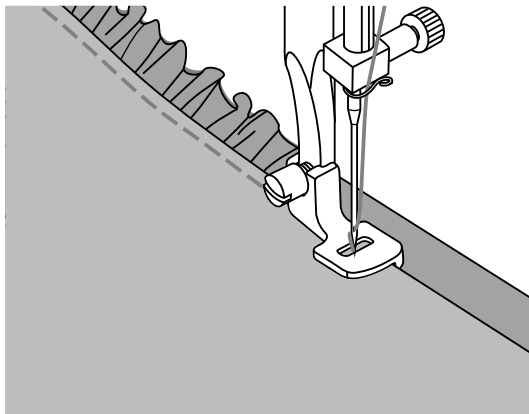


布にギャザーを寄せる方法

押え金ホルダーを外して、ギャザリング押えを取り付けます。上糸調子の設定は、2以下にします。

ギャザーを寄せたい布をミシンにセットし、布端を押え金の右側に合わせて、縫っていきます。

これで、布に自動的にギャザーがかかります。薄手から中くらいの厚さの布に使えます。

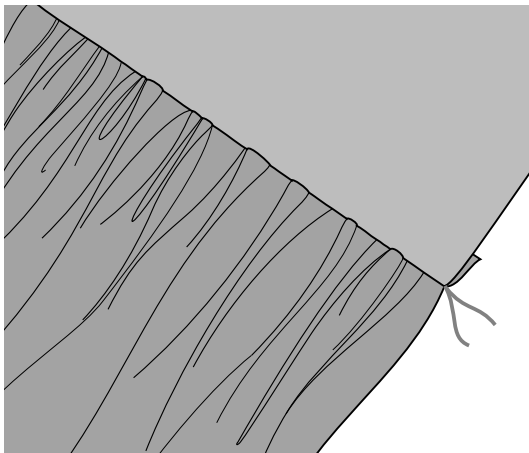


布にギャザーをかけると同時に、他の布に縫い付ける方法

ギャザリング押えをよく見ると、底に溝があることにお気づきになるでしょう。

この溝を使えば、2枚の布を重ねて、下の布にギャザーを寄せながら、上の布を平らに保って縫い合わせることができます。ドレスのボディとスカートを縫い合わせる場合等に便利です。

1. 押え金ホルダーを取り外して、ギャザリング押えを取り付けます。
2. ギャザーを寄せたい布を、表を上にしてセットします。
3. 上の布を、表を下にして、溝にはめ込みます。
4. こうして中表に合わせた2枚の布を、図のように縫い進めていきます。



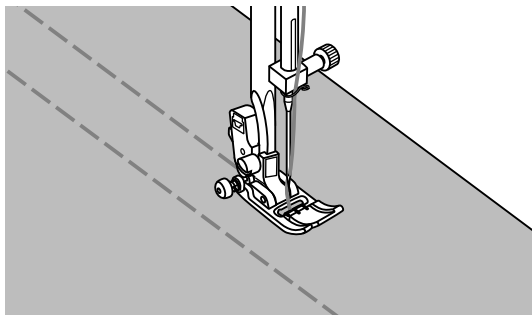
🔄 ご注意

- ギャザーの試し縫いをして確かめるときは、通常よりも25センチほど長い布、縁布またはゴムひもをご用意下さい。これだけの長さがあれば、ミシンの調整がやりやすくなり、作品もきれいに仕上がるでしょう。試し縫いには、必ず作品に使っているのと同じ布を、同じ布目でお使い下さい。

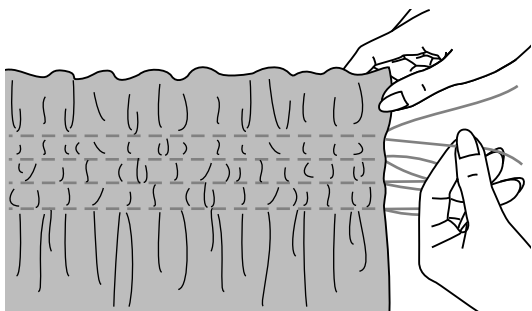
一般的に、布の横目でギャザーをかける方が、縦目よりもきれいに仕上がります。

- また、きれいにギャザーを寄せるため、ミシンのスピードは遅めにした方がよいでしょう。

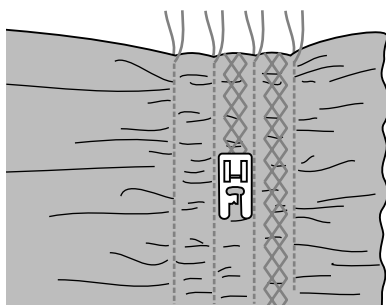
スマッキング



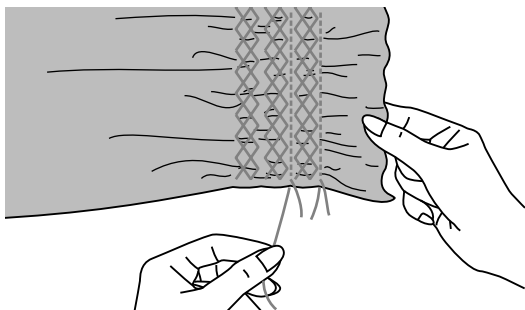
送り長さを4.0ミリに設定し、上糸調子をゆるめます。
標準押えを使って、スマッキングをしたい部分に、1センチの幅を置いて、2本の直線縫いをします。



糸の片端を結びます。
下糸を引いて、ギャザーを均等に寄せます。もう片側の糸端も結びます。

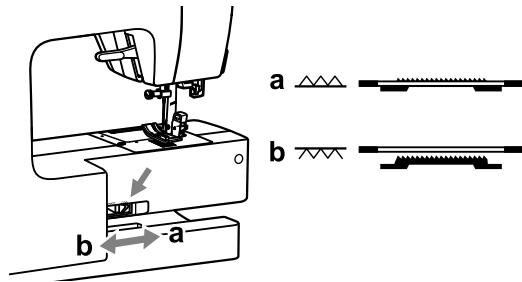
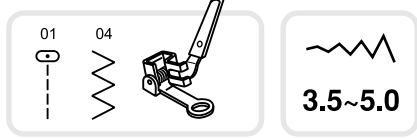


必要ならば上糸調子を調節してから、直線縫いの間の部分に飾りステッチをかけます。

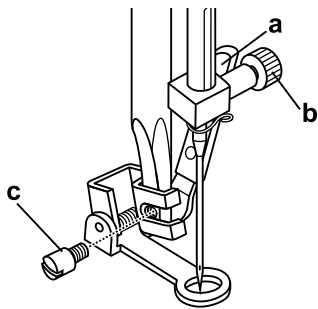


ギャザリングステッチを引き抜きます。

フリーモーションによるダーニング、刺しゅうおよびモノグラミング

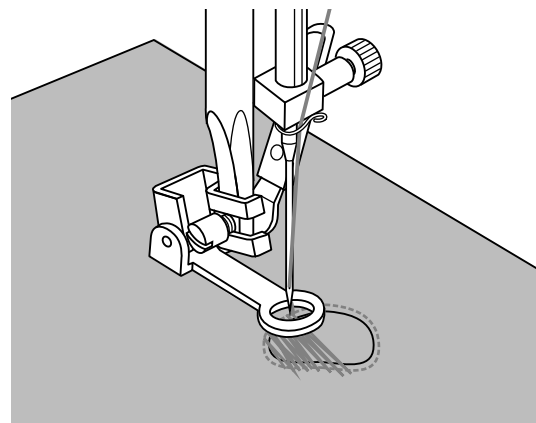


送り歯ドロップ機構を動かして、送り歯を下げます。



押え金ホルダーを取り外して、ダーニング押えをホルダーに取り付けます。

(a)のレバーは、(b)の針クランプネジの後ろになります。人差し指で、ダーニング押えを後ろから強く押し込み、(c)のネジを締めます。



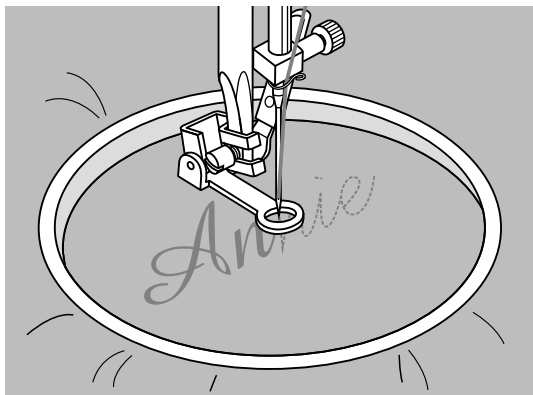
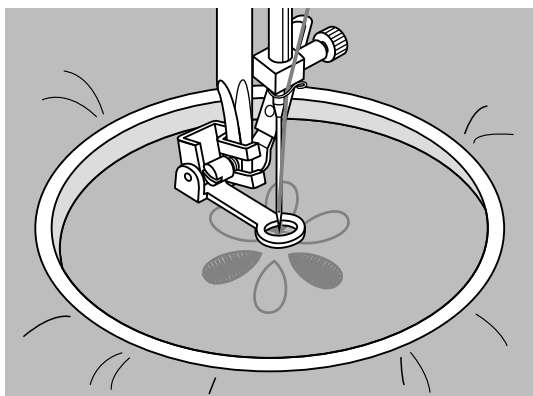
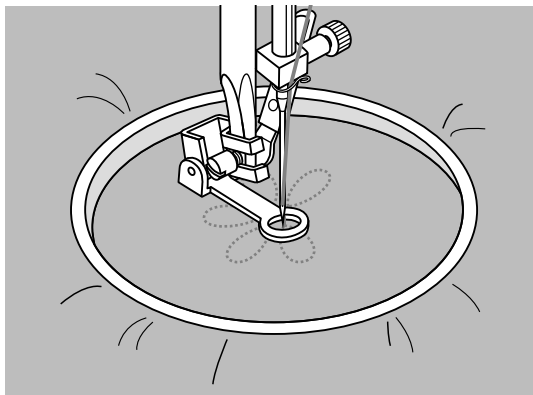
ダーニング(繕い縫い)

最初に、穴の開いた部分を囲むように縫います。(繊維を固定するためです。)その後、左から右に向かうようにして、穴の上をかがっていきます。できるだけ滑らかに縫い進めるようにして下さい。

それから、布を90度回転させ、最初のステッチに重ねるように、ゆっくりと縫います。糸同士が離れすぎないように、また重ならないようにご注意下さい。

🔄 ご注意

フリーモーションダーニングには、送り歯の動きは必要ありません。布は、自分の手で加減して動かします。布を動かすスピードを、ミシンの動きに合わせるようにして下さい。



刺しゅう

ジグザグ縫いのパターンを選択して、振り幅をお好みで調節します。

デザインのアウトラインに沿って、刺しゅう枠を動かしながら縫っていきます。一定の速度で、なめらかに縫って下さい。

アウトラインから内側に向けて、デザインの中を埋めていきます。ステッチの間に溝ができないよう、ご注意ください。

刺しゅう枠を速く動かせば、ステッチは長めになります。ゆっくり動かせば、細かいステッチができます。

縫い終わりは、オートロックボタンを押して、止め縫いで補強しましょう。

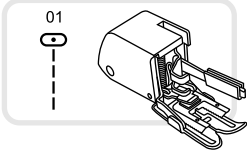
モノグラミング

ジグザグ縫いのパターンを選択して、振り幅をお好みで調節します。レタリングのデザインに合わせて、刺しゅう枠をゆっくり動かしながら、一定のスピードで縫っていきます。

文字が完成したら、オートロックボタンを押して、縫い終わりを止め縫いで補強しましょう。

※ 刺しゅう枠は、ミシンのアクセサリには含まれていません。

ウォーキング押え

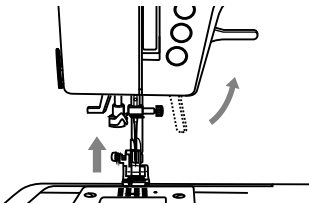


※ ウォーキング押えは別売りオプションです。ミシンのアクセサリーには含まれていません。

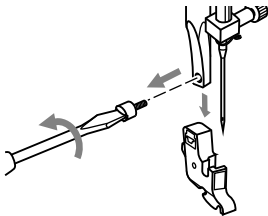
まず本当に必要かどうか判断するために、最初はウォーキング押え無しで縫ってみましょう。

一般的に、標準押えを使った方が、ステッチの状態を確認しやすく、また布のコントロールもしやすいです。このミシンでは、デリケートなシフォン素材からデニムを何枚も重ねた分厚いものまで、さまざまな種類の布をきれいに縫うことができます。

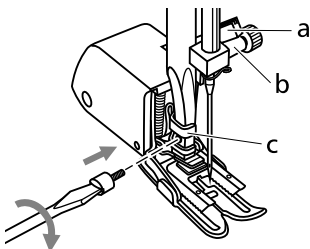
ウォーキング押えは、重ねた上と下の布の両方の送りを均等にするので、チェック柄、ストライプ等の模様合わせをするのに便利です。また、上下の布をずれることなく送りますので、扱いにくい布でもきれいに縫うことができます。



押え金リフターを上げて、押え金バーを上げます。

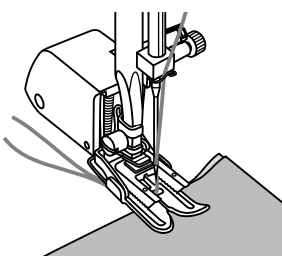


バーの取り付けネジを時計と反対方向に回して、押え金ホルダーを取り外します。



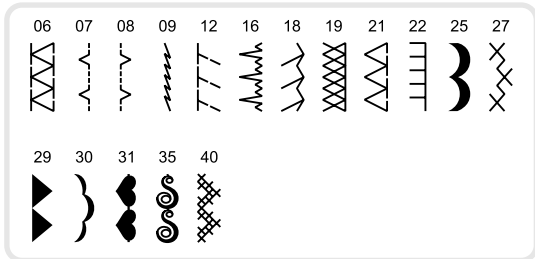
ウォーキング押えを以下のように取り付けます。

- (a)のアームは、針ネジと(b)の軸に合わせます。
- プラスティックの取り付けヘッド(b)を、左から右にかけてスライドさせ、押え金バーに取り付けます。
- 押え金バーを下げます。
- 押え金バー取り付けネジを戻して、時計回りに回して固定します。
- 針ネジおよび押え金バー取り付けネジの両方が、しっかりと締まっていることをご確認下さい。



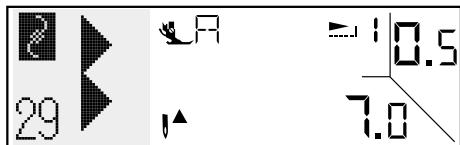
下糸を引き上げて、上下の糸両方をウォーキング押えの後ろに回します。

パターンを反転させる

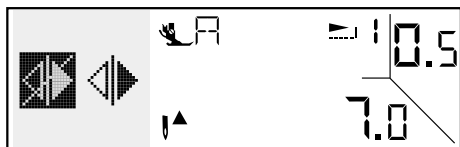



➡ ご注意

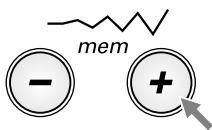
左記のパターンはすべて反転できます。




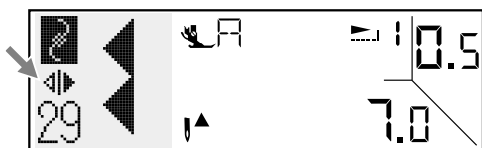
パターンを選択します。




セットアップボタン「」を押して、セットアッププログラムを開き、反転機能を選択します。



振り幅調節ボタンの「」を押して、パターンを反転させます。

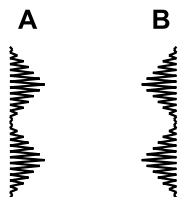


セットアップボタン「」を再度押して、セットアッププログラムを閉じます。

液晶画面に、パターンの反転したイメージが表示されます。

➡ ご注意

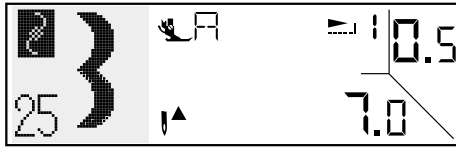
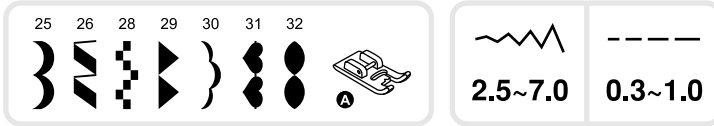
反転させたパターンを、他のパターンと組み合わせることも可能です。



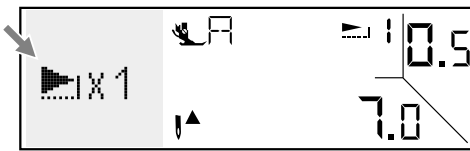
A. 通常のパターン




B. 反転させたパターン

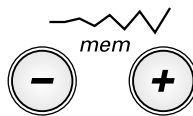
ステッチパターンの拡大



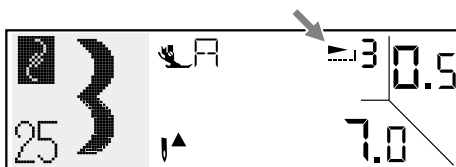
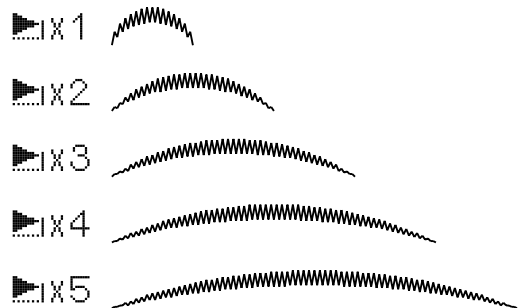
パターンを選択します。




セットアップボタン「」を押して、セットアッププログラムを開き、スクロールボタン「 」を使って、拡大機能を選択します。



振り幅調節ボタンを使って、拡大のサイズを選択します。
ステッチは、5倍のサイズまで拡大可能です。



セットアップボタン「」を再度押して、セットアッププログラムを閉じます。

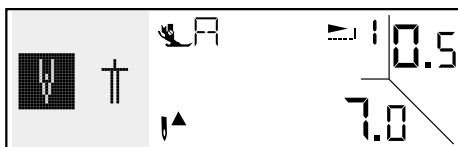
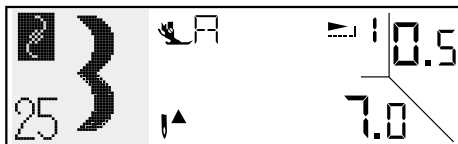
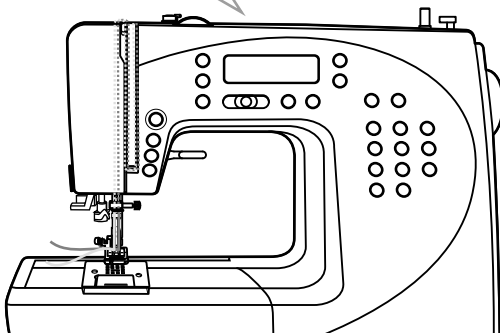
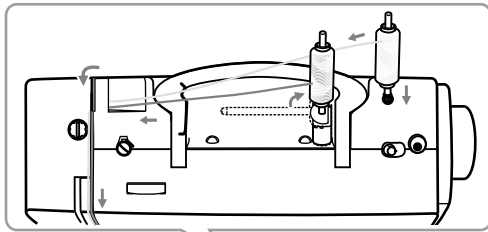
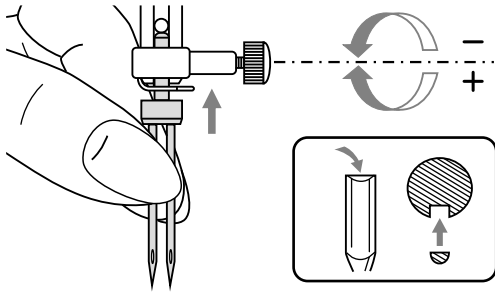
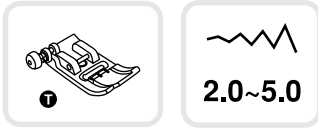
液晶画面には、パターンを拡大したイメージが表示されます。

振り幅や送り長さを変更すれば、デザインのバリエーションが広がります。

ご注意

パターン25、26および28-32は、拡大と反転を同時に行うことができます。

二本針



⤵️ ご注意

二本針は別売りです。ミシンのアクセサリーには含まれていません。

二本針をセットします。

⚠️ ご注意

二本針を使う場合には、必ず標準押えを使って下さい。液晶画面に表示されている押え金の種類は関係ありません。

二本針の幅は、最大2ミリまでのものにして下さい。(例・bernette パーツ番号502020.62.91等)

(14)の糸立て棒を少し後ろ側に押し込んでから、かちりとはまるまで、立てます。通常の水平な糸立て棒と同様の方法で上糸をかけ、左側の針に通します。

追加の糸立て棒(アクセサリーに入っています)を、ミシンの上にある穴にセットします。

針の上にある糸ガイド以外の部分に、ふつうどおりに糸をかけ、右側の針に通します。

二本の針に、それぞれ1本ずつ糸が通った状態になります。




⤵️ ご注意

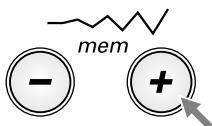
二本針に使う上糸は、両方とも同じ太さに揃えるようにして下さい。色は1色でも2色でも結構です。

パターンを選択します。

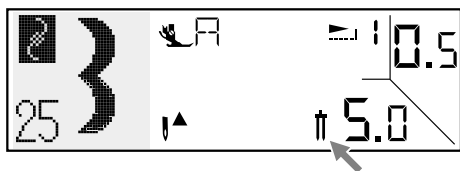
⤵️ ご注意


パターン番号10および45-55は、二本針には使用できません。

セットアップボタン「」を押して、セットアッププログラムを開き、それからスクロールボタン「 」を使って、二本針の機能を選択します。

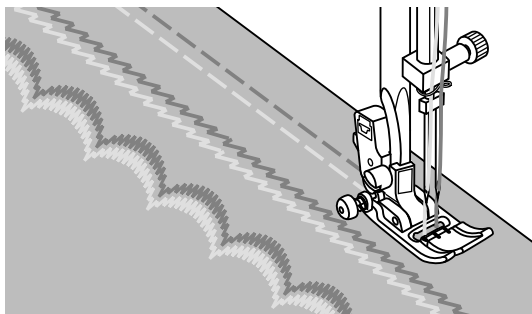


振り幅調節ボタン「+」を押して、針の機能をオンにします。



セットアップボタン「」を再度押して、セットアッププログラムを閉じます。

液晶画面には、二本針のアイコンが表示されます。ミシンは自動的に二本針に合わせて、振り幅を狭くします。

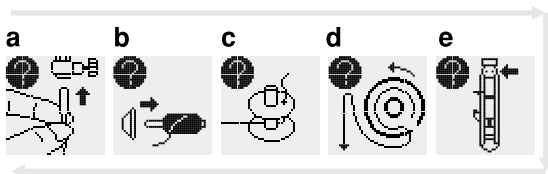
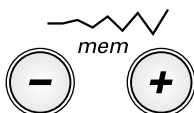
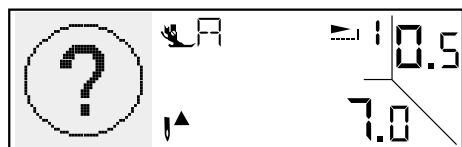


縫い始めます。ステッチが平行に2列並びます。




 **ご注意**

二本針で縫う場合には、ゆっくり縫うことを心がけて下さい。仕上がりがきれいになります。

ヘルプ機能

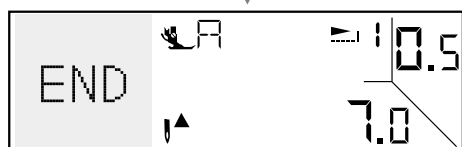
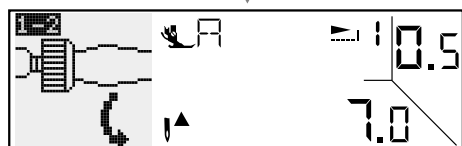
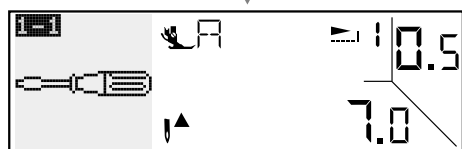
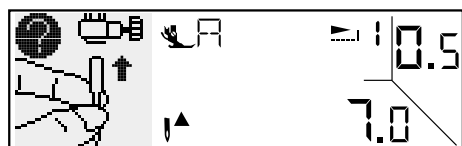


基本操作の中には、液晶画面に操作方法を表示できるものがあります。



セットアップボタン「」を押して、セットアッププログラムを開き、それからスクロールボタン「」「」を使って、ヘルプ機能を選択します。

振り幅調節ボタンを押して、必要なヘルプトピックを選択します。

- 針の交換
- 上糸通し
- 下糸の巻き取り
- ボビンの挿入方法
- ボタンホールの縫い方



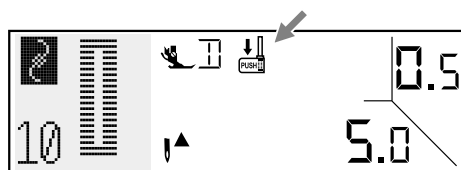
最初の画面には、選択したトピックが表示されます。その後、2秒間のサイクルで、説明画面が自動的に繰り返されます。

自動的に説明画面が繰り返されている間に、送り長さボタンを押すと、説明画面を停止することができます。次の画面を表示するには、送り長さ調節ボタンの「」を押します。前画面に戻るためには、送り長さ調節ボタンの「」を押します。

ヘルプモードを終了するには、以下の方法があります。


- ・ 振り幅ボタンを押して、他のトピックを選択します。
- ・ スクロールボタンを押して、他のセットアップ機能を選択します。
- ・ セットアップボタンを押して、セットアッププログラムを終了し、通常のソーイング画面に戻ります。

警告機能



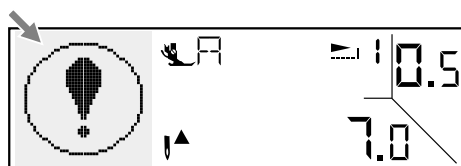
インストラクションアイコンの表示

ボタンホールレバーを下げる

ボタンホールまたはダーニングのパターンを選択すると、液晶画面に「

下糸巻取り

下糸巻取り装置が起動している(右側にある)場合には、液晶画面にこのアイコンが表示されます。



警告アイコンの表示

ミシンにトラブルがあります

!マークのアイコンは、糸が絡まって、弾み車が動かないというトラブルを意味します。

詳しくは71-72ページの「トラブルかなと思ったら」をご覧ください。

問題が解決すれば、そのまま縫い続けることができます。



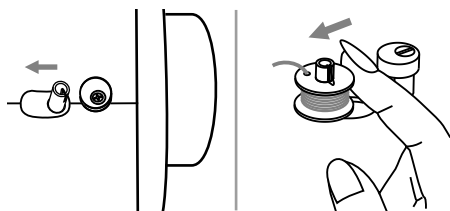
警告のブザー音

- ・ 順調に進んでいるときは、ブザー音は一回です。
- ・ 問題があるときには、短いブザー音が3回鳴ります。
- ・ ミシンにトラブルがあり、縫えない場合には、短いブザー音が8秒間鳴り続けます。

この場合は、糸が絡まって、弾み車が動かないというトラブルを意味します。

詳しくは71-72ページの「トラブルシューティング」をご覧ください。

問題が解決すれば、そのまま縫い続けることができます。



下糸巻取装置を左に戻す

ボビンが一杯になった、または下糸巻取装置が右側になったままの状態、ミシンのボタンのどれかを押すと、警告のブザー音が3回鳴ります。下糸巻取装置を元の位置に戻して下さい。

⚠️ ご注意




縫っている最中に、回転釜の中で糸が絡まってしまい、針が動かなくなった場合、フットコントローラーを踏み続けると、安全スイッチが作動して、自動的にミシンを完全に停止します。

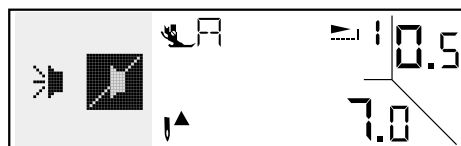
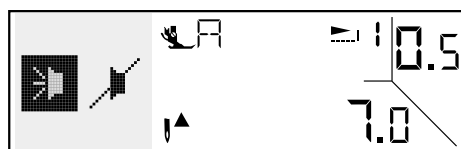
再スタートするには、ミシンのスイッチを一旦切ってから、もう一度オンにする必要があります。その場合、ミシンはパターングループの直接選択画面で、パターン1が選択された状態から始まります。


🔄 ご注意



問題が解決できない場合には、お買い上げのお店にご相談下さい。


ブザーの音

セットアップボタン「」を押して、セットアッププログラムを開きます。それからスクロールボタン「 」を使い、サウンド機能を選択します。



振幅調節ボタンを「 」押して、モードを選択します。

「」でお好みの音を選択するか、または「」でサウンドをオフにします。

セットアップボタン「」を再度押して変更を保存し、セットアッププログラムを閉じます。

メモリー機能

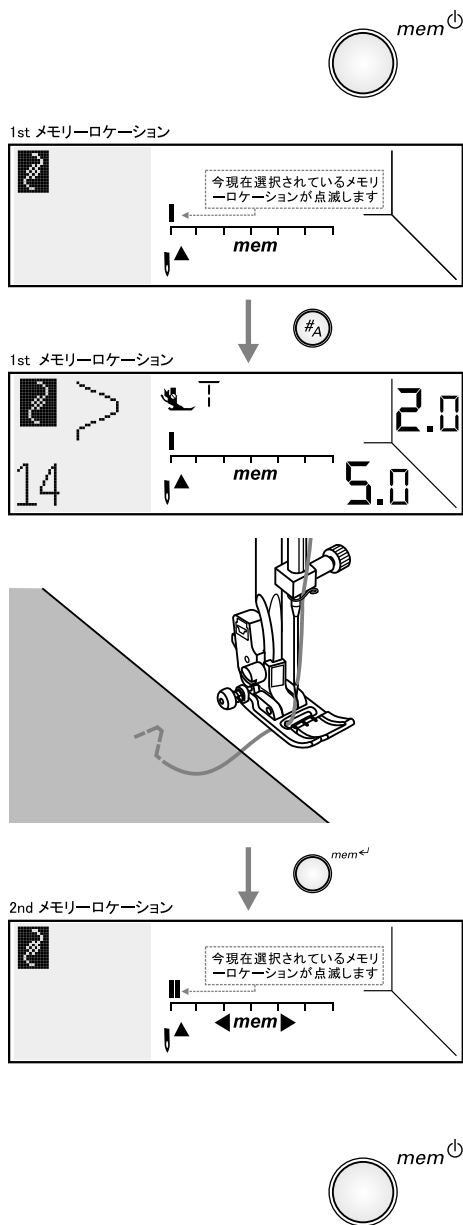
メモリー機能を使って、複数のステッチを組み合わせたことができます。
 組み合わせたパターンは、何度でも使えるよう、保存が可能です。ミシンの電源を切った後も、メモリーはそのまま残ります。

🔄 ご注意

- ・ミシンのメモリーは、一つにつき30スペースとなっています。
- ・パターン選択で、数字のグループ、またはアルファベットのグループから複数のパターンを選び、縫うことができます。
- ・パターン10および45-55は、保存することができません。
- ・メモリーパターンを縫っている間は、針上下停止位置ボタンおよび返し縫いボタンは使用できません。

一連のステッチパターンを入力する

メモリーボタンを押して、メモリーモードに切り替え、文字や飾りステッチのコンビネーションを保存します。



モード選択ボタンを押して、液晶画面上で、「」または「」からお好みのパターングループを選択します。

お好みのパターンの番号を押すか、またはスクロールボタンで選択すると、そのパターンが液晶画面に表示されます。

🔄 ご注意

パラメーター入力ボタンを押す前に...

- ・選択したステッチのパラメーター(送り長さ、振幅、反転および拡大等)は、調節可能です。
- ・今現在表示されているメモリー内のパターンは、スタート/ストップボタンを押すか、フットコントロールローラーを踏むことで、試し縫いができます。ミシンは、パターンを一通り縫ったところで自動的に停止します。

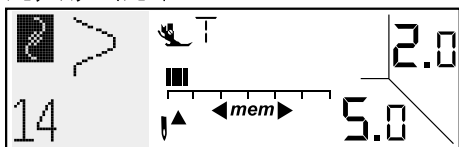
パラメーター入力ボタンを押して、パターンをインプットし、次のメモリーに移動します。

このステップを繰り返しながら、必要なパターンを保存していきます。

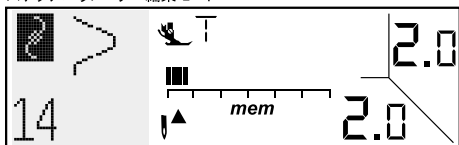
液晶画面上のメモリーを示すグラフで、今現在どのメモリーロケーションで作業をしているのか、確認できます。グラフのバーは、それぞれのメモリーロケーションを示しています。

メモリーボタンを押すと、メモリーモードを終了して、最後に選択されていたパターングループに戻ります。

メモリースクロールモード



ステッチパラメーター編集モード



メモリースクロールとパラメーター編集モードを切り替えるには

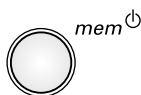
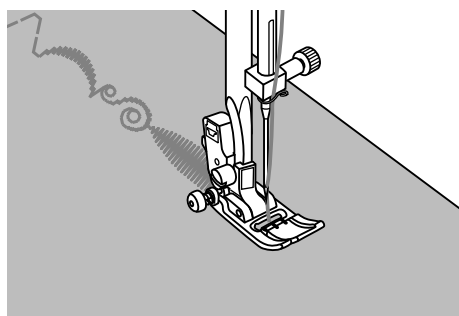
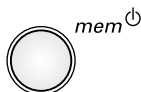
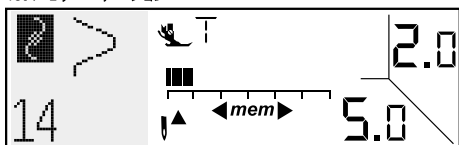
メモリーモードでは、振り幅調節ボタンには、二つの役割があります。振り幅の調節という本来の役割、およびメモリー間の切り替えです。

液晶画面上の、メモリースクロール用矢印をご覧ください。

- ・ 矢印がついている場合は、「◀mem▶」メモリースクロールモードです。
- ・ 矢印がない場合は、「mem」ステッチパラメーター編集モードです。

パラメーター入力ボタンを押して、二つのモード間を切り替えることができます。

1st メモリーロケーション



保存したパターンを呼び出し、縫う方法

メモリーボタンを押して、メモリーモードに切り替えます。画面上には、第一番目のメモリーロケーションが表示されます。

(今現在選択されているメモリーロケーションが点滅します。)

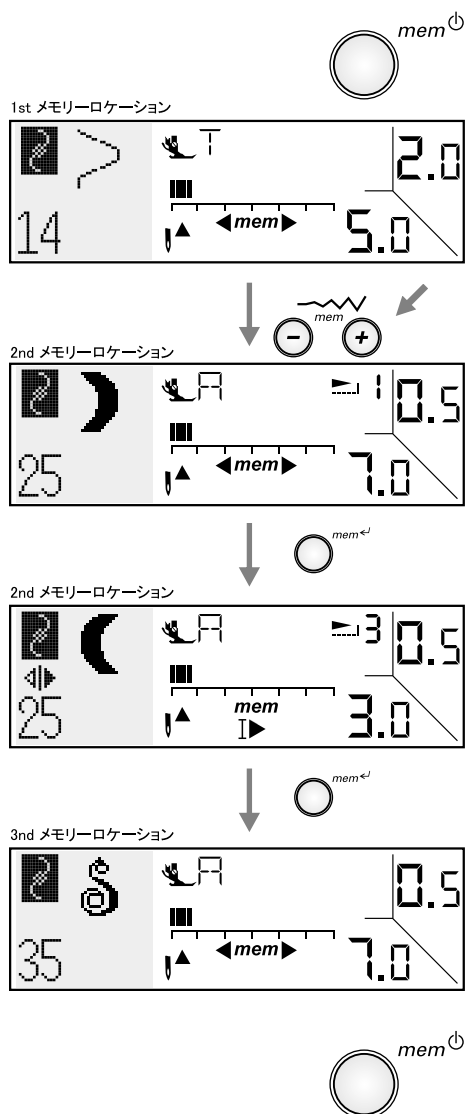
スタート/ストップボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込んで、縫い始めます。

液晶画面上で点滅しているメモリーロケーションは、パターンを縫い進めるにつれて、移動していきます。

👉 ご注意

- ・ 画面上で、空のメモリーロケーションが指定されている場合は、第一番目のパターンから縫い始めます。
- ・ 画面がある特定のロケーションで停止している場合は、そのパターンから縫い始めます。

メモリーボタンを押すと、メモリーモードを終了して、最後に選択されていたパターングループに戻ります。



保存したステッチの確認および編集

メモリーボタンを押して、メモリーモードに切り替えます。画面には、第一番目のメモリーロケーションが表示されます。

(今現在選択されているメモリーロケーションが点滅します。)

振り幅調節ボタンを使ってメモリーロケーション間を移動しながら、パラメーターの設定を確認します。

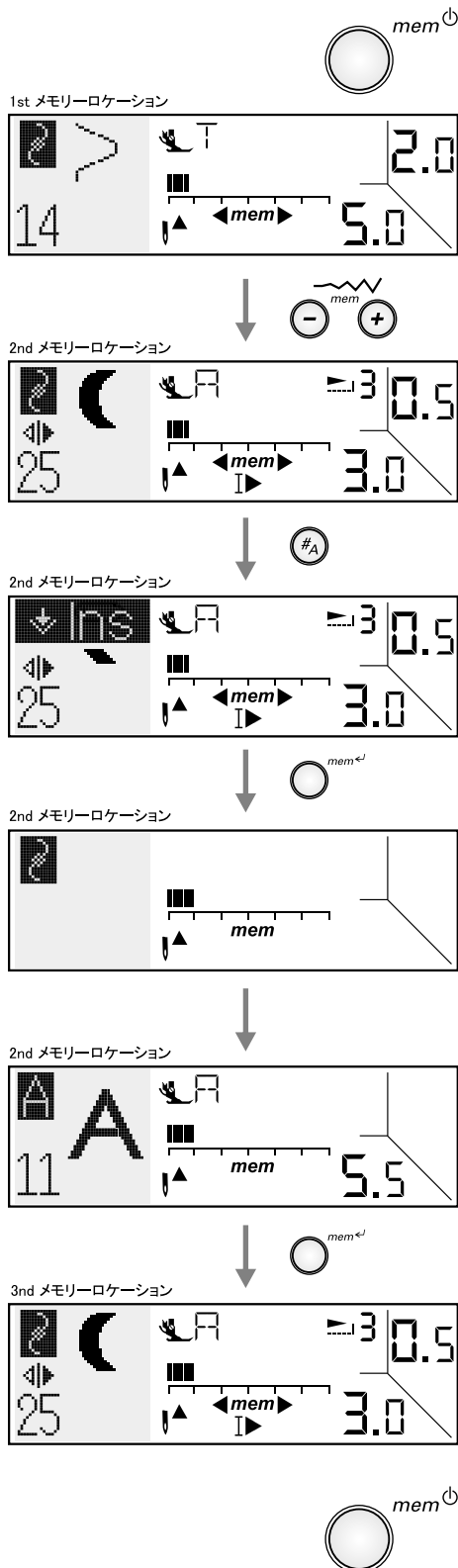
変更を加えたいロケーションでは、パラメーター入力ボタンを押して、送り長さ、振り幅、反転、拡大、自動ストップおよび二本針等の設定を操作することができます。

パラメーター入力ボタンを再度押して、変更がある場合はそれを保存し、メモリースクロールモードに戻ります。それから、次に編集したいメモリーロケーションに移動します。

メモリーボタンを押すと、メモリーモードを終了して、最後に選択されていたパターングループに戻ります。

メモリーモードでの二本針ソーイング

- 二本針機能では、通常のソーイングパターンしか縫うことはできません。アルファベット等が保存されている場合は、二本針機能は使えなくなります。
- 二本針機能がオンになっていると、アルファベットはメモリーにプログラムできなくなります。
- メモリーに保存されたあるパターンに対して、二本針機能がオンになっている場合には、自動的にすべてのパターンに二本針が適用されることとなります。そのため、パターン全体が同じ振り幅で縫われることとなります。



追加のステッチを挿入するには

メモリーボタンを押して、メモリーモードに切り替えます。画面には、第一番目のメモリーロケーションが表示されます。

(今現在選択されているメモリーロケーションが点滅します。)

振幅調節ボタンを使って、新しいステッチを挿入したい箇所を選択します。

パターングループ選択ボタンを何回か押して、挿入機能呼び出します。

パラメーター入力ボタンを押して、挿入したい箇所にまず空のスペースを置きます。

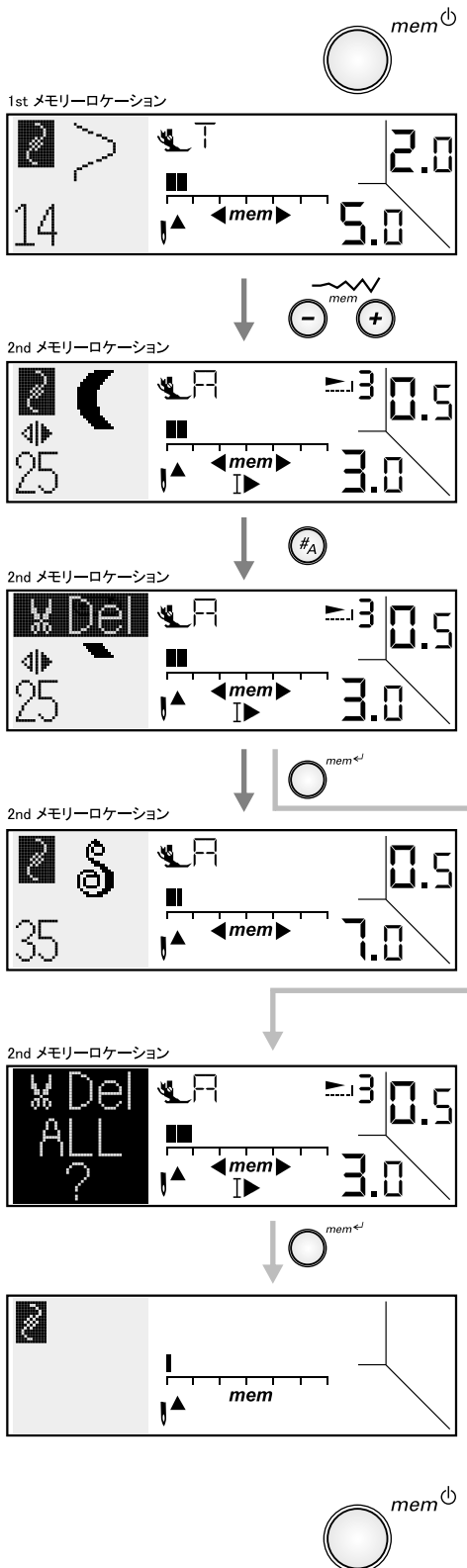
その部分以降にあるパターンがすべて、一つずつずれていきます。

例・2番目のメモリーロケーションを選択した場合には、元々保存していたパターンは、2番目から3番目に移動します。

必要なパターン番号を押すか、スクロールボタンでステッチを選択します。

パラメーター入力ボタンを再度押してパターンを保存し、次のメモリーロケーションに移動します。

メモリーボタンを押すと、メモリーモードを終了して、最後に選択されていたパターングループに戻ります。



ステッチの削除

メモリーボタンを押して、メモリーモードに切り替えます。画面には、第一番目のメモリーロケーションが表示されます。

(今現在選択されているメモリーロケーションが点滅します。)

振幅調節ボタンを押して、削除したいパターンを選択します。

パターングループ選択ボタンを何回か押して、削除機能呼び出します。

パラメーター入力ボタンを押して、パターンを削除します。

その部分以降にあるパターンは、すべて一つずつずれます。

すべてのパターンを削除したい場合には、パラメーター入力ボタンを3秒間押し続けて下さい。

液晶画面に"Del ALL"「すべてを削除してよいですか?」という質問が表示されます。

一旦ボタンを放してから、再度押すと、保存されているすべてのパターンを削除して、メモリーをリセットすることができます。

ご注意

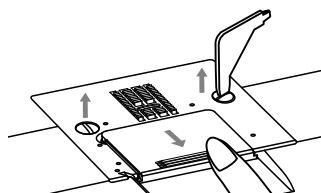
パラメーター入力ボタンおよびメモリーボタン以外のキーをどれか押すと、「すべてを削除」は解除され、元の画面に戻ります。

メモリーボタンを押すと、メモリーモードを終了して、最後に選択されていたパターングループに戻ります。

クリーニング

⚠️ ご注意

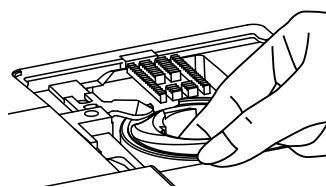
部品の交換や取り外しと同様、電源スイッチをオフ「0」にし、ミシンのコンセントを抜いてから、クリーニングをして下さい。



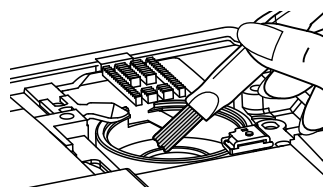
針板を取り外す。

針を最高位置に上げ、押え金を外します。

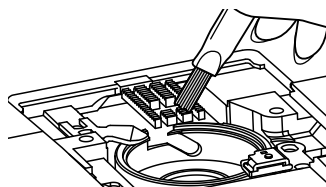
ボビンカバーのプレートを開き、2本のネジを外してから、針板を取り外します。



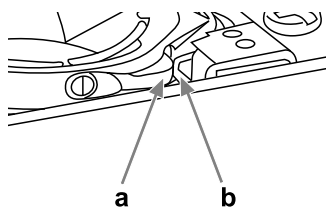
ボビンホルダーを右側に押し込み、持ち上げて、取り外します。



これで回転釜のクリーニングができます。



送り歯およびボビンホルダーは、まずブラシで清掃し、それから柔らかい乾いた布で拭きます。



ボビンホルダーを回転釜に戻す際には、(a)の引っかかりが、(b)のストッパーにはまるようにして下さい。

針板を戻し、2本のネジも戻します。ボビンを挿入します。ボビンカバーのプレートを開じて、押え金を戻します。

⚠️ 重要

布や糸の切れ端や綿ゴミは、定期的に清掃して下さい。

送り歯には、決して注油しないようにして下さい。

また、ミシンはお買い上げのお店に定期点検に出すようにして下さい。

LEDランプの交換

ミシンに装備されているLEDランプは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

トラブルかなと思ったら

修理を依頼する前に、以下の項目をチェックして下さい。それでも解決しない場合には、お買い上げのお店またはお近くの取扱店にご連絡下さい。

問題点	原因	解決方法	参照
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方が間違っている。	1. 糸かけをやり直しましょう。	12
	2. 上糸調子が強すぎる。	2. 上糸調子をゆるめましょう。	16
	3. 糸が針に対して太すぎる。	3. より穴の大きな針を選びましょう。	20
	4. 針の挿入方法が間違っている。	4. 針を取り外して、入れなおしましょう。(平らな面が後ろ側になります。)	11
	5. 糸が糸立て棒にかからまる。	5. 糸コマを取り外して、糸を巻き取ります。	12
	6. 針に損傷がある。	6. 針を交換しましょう。	11
下糸が切れる	1. ポビンケースの挿入方法が間違っている。	1. ポビンケースを一旦外して入れ直し、糸を引き出します。糸がスムーズに引ければ大丈夫です。	10
	2. ポビンケースの糸通しが間違っている。	2. ポビンおよびポビンケースの両方をチェックして下さい。	10
	3. 下糸調子が強すぎる。	3. 説明に従って、下糸調子をゆるめて下さい。	16
針目が飛ぶ	1. 針の挿入方法が間違っている。	1. 針を一旦外して、入れ直します。(平らな面が後ろ側に来ます。)	11
	2. 針に損傷がある。	2. 針を交換しましょう。	11
	3. 針のサイズが間違っている。	3. 糸と針のサイズを合わせましょう。	20
	4. 押え金の取付け方が間違っている。	4. 押えを正しく取り付けましょう。	28-29
	5. ミシンの糸かけが間違っている。	5. 糸かけを正しくやり直して下さい。	12
	6. 押え圧が弱い。	6. 押え圧を調節しましょう。	16
針が折れる	1. 針に損傷がある。	1. 新しい針に交換しましょう。	11
	2. 針の挿入方法が間違っている。	2. 針を一旦外して、入れ直します。(平らな面が後ろ側に来ます。)	20
	3. 針のサイズが間違っている。	3. 糸および布に合った針を選びましょう。	20
	4. 目的の違う押え金を使っている。	4. 正しい押え金に交換しましょう。	28-29
	5. 針クランプのネジがゆるんでいる。	5. ねじ回しを使って、ネジを強く締めなおします。	11
	6. ステッチと押え金が合わない。	6. ステッチに合った押え金を使いましょう。	28-29
	7. 上糸調子が強過ぎる。	7. 上糸調子をゆるめましょう。	16
糸締りが悪い	1. 糸かけが間違っている。	1. 糸かけを確認して下さい。	12
	2. 下糸のかけ方が間違っている。	2. 図の通りに下糸をかけて下さい。	8
	3. 針、布、糸の組み合わせが間違っている。	3. 糸および布に合った針を選びましょう。	20
	4. 糸調子が間違っている。	4. 糸調子を調整して下さい。	16
縫い目が縮む	1. 布に対して針が太過ぎる。	1. 細めの針に交換して下さい。	20
	2. 送り長さの設定が間違っている。	2. 送り長さの調節をして下さい。	25
	3. 糸調子が強過ぎる。	3. 糸調子をゆるめましょう。	16
縫い目がつれる	1. 上糸調子が強過ぎる。	1. 上糸調子をゆるめましょう。	16
	2. 上糸のかけ方が間違っている。	2. 上糸をかけ直しましょう。	12
	3. 布に対して針が太過ぎる。	3. 糸および布に合った針を選びましょう。	20
	4. 布に対して送り長さが長過ぎる。	4. 針目を密にしてみましょう。	25
	5. 押え圧が正しくない。	5. 押え圧を調整しましょう。	16

問題点	原因	解決方法	参照
模様がゆがむ	1. 押え金が正しくない。	1. 正しい押え金を選びましょう。	28-29
	2. 上糸調子が強過ぎる。	2. 上糸調子をゆるめます。	16
ミシンが止まってしまった	1. 糸が回転釜にからまっている。	上糸とボビンケースを取り外し、弾み車を手で前後に回しながら、絡まった糸を取り除きます。	70
	2. 送り歯に糸くずがはさまっている。		
ミシンの音が高い	1. 糸くずが回転釜または針棒にたまっている。	1. 釜および送り歯を説明に従ってクリーニングして下さい。	70
	2. 針に損傷がある。	2. 針を交換しましょう。	11
	3. 内蔵モーターからハミングのような小さな音がする。	3. 正常です。	-
	4. 糸が釜に絡まっている。	上糸とボビンケースを取り外し、弾み車を手で前後に回しながら、絡まった糸を取り除きます。	70
	5. 針板の下で送り歯に布粉がはさまっている。		
ステッチが均等でない、送りが均等でない	1. 糸の品質が悪い。	1. 高品質の糸をお使い下さい。	20
	2. 下糸のかけ方が間違っている。	2. ボビンケースからボビンを取りはずし、糸をかけ直して下さい。	70
	3. 布が引っ張られている。	3. 縫いながら布を引っ張らないようにして下さい。ミシンの送りに任せましょう。	-
ミシンが動かない	1. スイッチがオフになっている。	1. スイッチをオンにします。	6
	2. 押え金レバーが上がっている。	2. レバーを下げましょう。	18
	3. コードが外れている。	3. きちんとコンセントに接続しましょう。	6

bernette
sublime

JP - 09/2013
502020.84.42 / 021D1E0402
© BERNINA International AG
Steckborn CH, www.bernina.com



For more information visit
www.mybernette.com